

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」にもとづく
高校改革の進捗並びに検証状況について

平成 20 年 1 月

大阪府教育委員会事務局 教育振興室 高校改革課

- 目 次 -

はじめに	2
第 部 高校改革の総括	3
第 部 学校状況	
1 総合学科高校	6
2 普通科総合選択制高校	13
3 工科高校	21
4 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）	29
5 夜間定時制の課程	35
6 国際・科学高校	43
7 全日制普通科単位制高校	48
第 部 資料	
1 特色づくり・再編整備計画（概要）	52
2 教育改革プログラム（抜粋）	54
3 中学校等アンケート	58
4 市町村教育委員会意見交換会（概要）	71
5 進路担当者意見交換会（概要）	72
6 府立高等学校長からの意見（概要）	73

はじめに ～ 高校改革の成果検証にあたって ～

大阪府教育委員会は、大幅な生徒減少と国際化や情報化、少子高齢化等の社会情勢の変化が続くなか、生徒一人ひとりが目的意識を持ち、いきいきと学べるよう、平成 11 年度から「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」、平成 15 年度から「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」を進めてきました。

平成 11 年度 155 校（全日制）+ 30 校（定時制・通信制）		平成 20 年度 138 校（昼間の学校）+ 16 校（夜間定時制・通信制） <平成 19 年度最終計画実施後>	
普通科	117 校	普通科	73 校
専門学科併置	19 校	普通科総合選択制 専門学科併置	19 校 11 校
総合学科	3 校	総合学科	10 校
		全日制普通科単位制	4 校
専門高校	16 校	専門高校	15 校
		多部制単位制 (クリエイティブスクール)	6 校
定時制	29 校	夜間定時制	15 校
通信制	1 校	通信制	1 校

「特色づくり」の推進では、社会の変化と多様な学びのニーズに対応して、「入れる学校」から「入りたい学校」へと生徒が主体的に学べる新しいタイプの高校づくりを進めてきました。

また、「再編整備」では、中学校卒業生数の減少に対応して、適正な学校の規模を保ちつつ活力ある学校づくりを進めてきました。

本編は、平成 20 年度で「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」が終了するにあたり、平成 19 年 8 月に発表した「中間まとめ」について、中学校や高等学校及びその他関係者の意見を伺い、改革の成果と課題を整理したものです。

今後、この検証を十分に踏まえ、大阪の次代の高校教育の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。ご協力をいただいた方々に、感謝申し上げますとともに、変わらぬご指導、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

= = = 第 部 高校改革の総括 = = =

大阪府教育委員会では、「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」(第 部資料 1 参照)に基づき、高校改革の進行状況について、府が把握しているデータや指標をもとに、7つの学校タイプ別(目次参照)に検証を行い、平成 19 年 8 月末に『「府立高等学校特色づくり・再編整備計画(全体計画)」にもとづく高校改革の進行状況について、中間まとめ』(以下「中間まとめ」)を発表した。

「中間まとめ」では、7つの学校タイプについて、入学者選抜の状況、教育課程や部活動及び中退率等の学校生活の状況、進路の状況などの指標はもとより、生徒の声も参考にしながら検証を行った。

その後、9月下旬から府内公立中学校長、府内盲・聾・養護学校長・副校長に「中間まとめ」の説明を行い、アンケート調査(第 部資料 3 参照)を実施し、10月には、市町村教育委員会の進路指導担当指導主事と「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」についての意見交換会(第 部資料 4 参照)さらに、公立中学校長から推薦のあった公立中学校教諭と意見交換会(第 部資料 5 参照)を実施して、中学生や保護者の意見、中学校の進路指導の実態等について、意見を聴取した。そして、府立高等学校長から意見・要望等(第 部資料 6 参照)を聴取した。

これらの意見を踏まえて、「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」についての成果と課題をまとめた。

1 成果

特色づくりと教育環境の整備に取り組んだ結果、中学生の高校進学を選択肢が拡大し、「入りたい学校」という観点で進路選択をすることができるようになった。また、目的意識をもって入学し、生き生きと学ぶ生徒が増え、高校が活性化し学校の教育力も向上した。

中学生の進路選択の充実と拡大

《進路選択》「特色づくり・再編整備」による新しいタイプの高校の誕生によって、中学生が「入りたい学校」という観点で進路選択をすることができるようになった。また、特色ある学びや新しい教育システムの中で、学業や友人関係のつまずきなどの課題を解決して自分のペースや自信を取り戻している生徒も増えている。

《進路指導》中学校において、各校の「特色」を踏まえた高校選択を促す進路指導や、選択できる力を生徒に身に付けさせる進路指導が進められている。

学習指導の充実

《学習内容》系列、エリア、系・専科、ワールド、類型や学校設定科目等の設置による特色ある教育内容が、能力・適性、進路希望等に対応し、生徒の興味・関心を深め、目的意識を高め

ている。

《キャリア教育》生徒が自己のあり方・将来の生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、キャリア教育の観点に基づく計画的・組織的な進路指導や、適切な情報提供・助言などのガイダンス機能も充実してきた。その結果、多くの学校では、進路状況において、未定者を含む「その他」の割合が減っている。

学校の活性化

《学校生活》「特色づくり・再編整備」によって、適正規模・適正配置のもと活力ある学校づくりが進むとともに、目的意識を持った生徒が進学し、多くの学校では、学校行事や部活動が活性化している。

《コミュニケーション能力》様々な体験学習の中で、生徒は、「自分で考える力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を身に付け、その力を発揮して進路希望を実現している。

《中途退学》興味・関心に応じた多様な科目設定やガイダンスの充実などにより、多くの学校で中退率が下がった。

学校の授業力・教育力の向上

《授業力》特色ある教科・科目や多様な選択科目等を展開するために、科目内容・指導方法の研究・開発、「教科」の枠組みを越えた授業や生徒のニーズに対応した授業の研究・開発など、授業力を高める取組みが進んでいる。

《教育課程編成》教科での「分業的」な教育課程編成から、教育課程総体の教育的意義を考える観点での教育課程編成への転換が促進された。

《中高連携》特色ある教育内容やシステム及びその成果を説明し理解を得るため、保護者や地域等への情報提供や広報活動が積極的に行われるようになり、「中高連携」が進み、「開かれた学校づくり」が充実した。

《高大連携》選択学習の機会を拡大し、個性や能力の伸長を図るため、様々な形で大学との連携を進めている。また、改革校の特色ある取組みに対応して、大学入試における学校タイプを指定した推薦枠が設けられるようになった。

施設・設備面の教育環境の整備

《施設・設備》特色ある教育課程を実現し、様々な教育活動を展開するため、講義室、特別教室、実習室などが整備された。また、それらの施設・設備を十分に活用するため、指導方法を研究し授業力を高める取組みが進んでいる。

「特色づくり・再編整備計画」の実施による府立高校全体への影響

《全体の活性化》特色づくり・再編整備の実施とあわせ、各学校の特色ある取組みが展開されることにより、相乗的に、府立高校全体としての活性化が進展した。

《情報提供の活発化》府立高校全体として、特色づくりが進むとともに、高校から中学校への情報提供が活発化した。

2 課題

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」は順調に進み、定着しつつある。特色づくりの定着・発展のために、広報活動を継続し的確な情報発信に努めるとともに、改革校に対しては、学校タイプ別に状況を見極めながら、引き続き、支援と指導・助言を行う。また、入学者選抜制度についての研究や、府立高校全体の活性化に向けた取組みが必要である。

特色づくりの定着・発展に向けての支援と指導・助言

《理念・特色》今後、各タイプの理念と特色に基づき、教育課程編成と学校生活の充実など、引き続き支援、指導及び助言を行う必要がある。特に、特色づくりの柱となる多様な科目や特色ある科目の充実に向けて研究が必要である。

広報活動の継続・工夫

《広報活動》中学生や保護者には、高校が多様化したため、それぞれのタイプの理念や特色や、各校の取組みの違いなどがまだわかりにくい状況にある。中学生が興味・関心、能力・適性、進路希望等に応じて進路選択できるように、各校の特色ある取組みについて情報発信して、引き続き中学生や保護者、中学校に対してさらに工夫した広報活動が必要である。

制度の定着

《選抜制度》「特色づくり・再編整備」の実施と並行し、入学者選抜方法の改善や通学区域の改正が進められたが、これらが全体としてどのように定着していくのかについて、今後、その推移を見定めながら、適切に対応していくことが必要である。

特色づくり・再編整備の成果の共有化

《府立高校全体》「特色づくり・再編整備」の成果が府立高校全体に共有化され、活性化が図られるよう、さらに取組みを進めることが必要である。

= = = 第 部 学校状況 = = =

1 総合学科高校

1. 総合学科高校の理念及び特色

（1）設置理念

普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。（全体計画）

（2）特色

普通科目と専門科目にわたる多様な科目の設定
 多様な選択科目を設置し、選択の目安としての「系列」を設定
 総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育の充実

2. 府における総合学科高校

【特色づくり・再編整備計画による総合学科高校】

学校名	開校年度	設置系列名	所在地等
枚岡樟風	平成 13年度	食と生命を科学する、情報とメディアを活かす、ものづくりに親しむ、教養を高める	東大阪市鷹殿町 食品産業高校と玉川高校との統合
芦 間	平成 14年度	自然科学とテクノロジー、文化と社会 国際理解とコミュニケーション、 造形とメディア表現、生活と健康	守口市外島町 守口高校と守口北高校との統合
堺 東		堺学、英語、理数、医療・看護、 スポーツ・芸術	堺市南区晴美台 単独改編
八尾北	平成 15年度	国際コミュニケーション、福祉ネットワーク、 情報・テクノロジー、人間科学、 ライフクリエーション	八尾市萱振町 単独改編
貝 塚	平成 16年度	人間と共生、生活と創造、自然と環境、 情報と産業、文化と表現	貝塚市畠中 単独改編
千里青雲	平成 19年度	教育、健康、国際、科学、文化	豊中市新千里南町 東豊中高校と少路高校との統合

【特色づくり・再編整備計画以外の総合学科高校】

学校名	開校年度	設置系列名	所在地等
柴 島	平成 8年度	福祉、エコロジー・サイエンス、 都市デザイン、多文化理解、ライフデザイン	大阪市東淀川区柴島
今 宮		理数、生命科学、芸術・体育 文化・社会、国際理解	大阪市浪速区戎本町
松 原		ヒューマンネットワーク、コミュニティー、 マルチメディア、スポーツ&カルチャー、 エコロジー・サイエンス	松原市三宅東
能 勢	平成 16年度	国際・情報、環境科学、 食・花・交流、人間・福祉	豊能郡能勢町 連携型中高一貫総合学科

3. 総合学科高校の状況

(1) 入学者選抜の状況

改革前後の志願倍率を比べると、ほとんどの学校で改革後の志願倍率が上回っている。その後、年度進行により、志願倍率は落ち着いている。

入学者に占める女子の割合が高い学校が多い。（平成 19 年度の女子比率 …平均 66.2%）
学校行事や部活動に影響があると考えられる学校がある。

【志願倍率】

 は、改革前

学校名	開校年度	母体校名	志 願 倍 率							
			平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
柴 島	平成 8 年度	柴島	2.07	1.71	1.73	1.61	1.48	1.33	1.55	1.20
今 宮	平成 8 年度	今宮	2.40	2.29	2.09	1.94	1.90	1.70	1.79	1.64
松 原	平成 8 年度	松原	1.95	1.88	1.83	1.44	1.53	1.61	1.33	1.35
枚岡樟風	平成 13 年度	玉川	1.16	1.55	1.58	1.43	1.63	1.28	1.22	1.34
		食品産業	1.33							
芦 間	平成 14 年度	守口	1.11	1.27	3.41	1.73	1.60	1.30	1.22	1.46
		守口北	1.05	1.14						
堺 東	平成 14 年度	堺東	1.35	1.18	1.95	1.90	1.83	2.09	1.89	1.64
八尾北	平成 15 年度	八尾北	1.27	1.47	1.31	2.34	1.70	1.61	1.50	1.50
貝 塚	平成 16 年度	貝塚	1.22	1.25	1.26	1.18	2.10	1.95	1.91	1.68
千里青雲	平成 19 年度	少路	1.11	1.27	1.19	1.04	1.03	1.01	1.13	1.34
		東豊中	1.27	1.16	1.12	1.30	1.24	1.26	1.42	
総合学科平均倍率			2.13	1.85	2.08	1.76	1.72	1.62	1.56	1.46

能勢高校（能勢地域連携型中高一貫教育に係る入学者選抜実施校）を除く。

【平成 19 年度選抜 男女別合格者数】

学校名	柴島	今宮	松原	枚岡樟風	芦間	堺東	八尾北	貝塚	千里青雲	合計	比率	
募集人員	280	240	280	240	240	280	231	280	280	2,351	100.0%	
合格者 (人)	男	73	75	79	72	72	123	70	106	125	795	33.8%
	女	167	205	201	168	168	157	161	174	155	1,556	66.2%

能勢高校（能勢地域連携型中高一貫教育に係る入学者選抜実施校）を除く。

（ 2 ）学習における多様な選択肢 ～ 系列の設定と多数の選択科目の開設 ～

各校とも 4 ～ 5 の系列があり、国際理解、環境、情報に関わる系列、母体校の専門科目を生かした系列及び地域性を取り入れた系列を設置している。

設置科目数の平均は 156.2 科目、そのうち学校設定科目を含めた普通教科の科目が 88.8 科目、専門教科の科目が 44.0 科目、学校設定教科の科目が 23.4 科目である。普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの科目を設定している。

【平成 18 年度総合学科高校の設置科目数の平均】

	普通教科の科目数 (内 学校設定科目数)	専門教科の科目数 (内 学校設定科目数)	学校設定教科 の科目数	合 計
平均	88.8 (43.3)	44.0 (19.1)	23.4	156.2

《データの対象校》柴島、今宮、松原、枚岡樟風、芦間、堺東、八尾北、貝塚

（ 3 ）学校の活力その 1 ～ 「産業社会と人間」等の活用 ～

1 年次の原則履修科目「産業社会と人間」においては、将来の自分の進路を考えるための様々な体験活動やガイダンスなどを行うとともに、自己・他者理解を目的とした取り組みや自己表現力や情報活用能力を高めるためのディベート、テーマ学習、発表会を実施している。また、2 年次以降は「総合的な学習の時間」などで、「産業社会と人間」を踏まえた内容を実施している。平成 18 年度から府内の総合学科高校全体での「大阪府総合学科高等学校研究発表会」が開催された。平成 19 年度は 12 月 15 日に開催され舞台での発表や展示による発表が行われた。

（ 4 ）学校の活力その 2 ～ 部活動の活性化 ～

改革後、部活動加入率が上昇した学校が多い。

【部活動加入率】

部活動加入率	改革前年度	平成 18 年度
総合学科高校の平均	35.3	48.0

《データの対象校》枚岡樟風、芦間、堺東、八尾北、貝塚

（ 5 ）学校の活力その 3 ～ 中退率の変化 ～

生徒の興味・関心に応じた多様な科目設定や、「産業社会と人間」を始めとする様々な教育活動で実施しているガイダンスの充実などにより、改革後、総合学科高校全体の中退率は下がっている。

【改革前と改革後の中退率】

改革前（平成 12 年度）			改革後（平成 18 年度）		
普通科及び専門学科	中退者数	中退率	総合学科	中退者数	中退率
玉川、食品産業、 守口、守口北、 堺東、八尾北、貝塚	290	5.7%	枚岡樟風、 芦間、 堺東、八尾北、貝塚	95	2.6%

（ 6 ）総合学科高校における進路選択の状況

平成 18 年度に卒業生を出した 5 校（枚岡樟風、芦間、堺東、八尾北、貝塚）について、改革前と改革後を比較すると、進学する生徒の割合が増加した。また、進路未定者を含む「その他」の割合が改革前に比べて、39.0%（平成 14 年度）から 16.3%（平成 18 年度）へと下がっている。「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育が有効に機能していると考えられる。

【改革前と改革後の進路状況】

年度	学校名	卒業生数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
平成 14 年度 （改革前）	玉川、食品産業 守口、守口北、 堺東、八尾北 貝塚	1,428 人	23.9% （342 人）		19.5% （278 人）	17.6% （251 人）	39.0% （557 人）
平成 18 年度 （改革後）	枚岡樟風、 芦間、 堺東、八尾北 貝塚	1,151 人	28.1% （323 人）	13.7% （158 人）	25.5% （293 人）	16.4% （189 人）	16.3% （188 人）

4 . アンケート

（ 1 ）生徒アンケート

平成 17 年度末及び平成 18 年度末に総合学科高校の校長会が 3 年次生対象に実施した生徒アンケート調査から下記のような結果を得た。

すべての項目で 50%以上の生徒が肯定的（「よくあてはまる」または「ややあてはまる」）に回答した。

特に、「総合学科で学んでよかった。」という質問及び、「科目選択については選みたい科目を選べた。」という質問については 8 割以上の生徒が肯定的に回答している。また、「学校行事に総合学科らしさを感じた。」や「学校の様々な取組みを通じて自分で考える力や自主性を伸ばすことができた。」の質問にも 7 割から 8 割近い生徒が肯定的に回答した。

原則履修科目「産業社会と人間」に関する質問について肯定的な回答の割合は、平成 17 年度には 54%程度であったが、平成 18 年度は 59%程度に上昇している。

【生徒アンケートの結果】()内は平成 17 年度

質 問 項 目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
総合学科で学んでよかった。	56.7% (54.3)%	30.1% (32.6)%	9.3% (9.0)%	3.0% (3.0)%
	86.8%	(86.9)%		
選択科目の内容は全体的に見て期待通りであった。	19.5% (25.4)%	48.7% (40.8)%	22.2% (24.1)%	8.0% (8.0)%
	68.2%	(66.2)%		
科目選択の決定についてのガイダンス(説明や相談)は十分であった。	23.9% (27.7)%	41.7% (36.0)%	24.6% (24.7)%	7.9% (8.8)%
	65.6%	(63.7)%		
科目選択については選みたい科目を選べた。	35.6% (29.4)%	44.9% (53.0)%	13.8% (15.0)%	5.7% (2.6)%
	80.5%	(82.4)%		
選択した科目で自分の進路選択につながるのが十分あった。	37.3% (29.4)%	32.3% (34.8)%	18.5% (24.4)%	9.7% (9.7)%
	69.6%	(64.2)%		
「産業社会と人間」では、進路(ライフプランの確立)や将来の社会参加につながる体験や参考になることがあった。	21.0% (15.5)%	38.1% (39.4)%	28.1% (29.3)%	10.6% (12.8)%
	59.1%	(54.9)%		
「産業社会と人間」では、研究や発表など創意工夫ができる機会を豊富に持つことができた。	19.6% (14.3)%	39.5% (39.8)%	27.9% (30.2)%	10.2% (11.6)%
	59.1%	(54.1)%		
学校生活や学校行事においても、総合学科らしさを感じることができた。	41.0% (39.6)%	36.0% (39.7)%	15.2% (13.7)%	6.0% (4.8)%
	77.0%	(79.3)%		
総合学科の様々な取り組みで、自分で考える力や自主性をのばすことができた。	34.9% (34.8)%	39.3% (42.5)%	19.1% (15.3)%	4.4% (4.0)%
	74.2%	(77.3)%		
総合学科の様々な取り組みで、自己表現や他者理解などのコミュニケーションの能力が身についた。	31.3% (29.6)%	39.2% (43.4)%	21.0% (18.8)%	5.4% (4.8)%
	70.5%	(73.0)%		
学校の施設・設備に満足できた。	28.6% (24.3)%	42.4% (43.5)%	19.7% (19.8)%	6.9% (8.3)%
	71.0%	(67.8)%		

（ 2 ） 中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、総合学科高校については下記のような結果であった。

「総合学科高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 21.8%、肯定的回答は 83.5%である。

「総合学科高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 14.4%、肯定的回答は 79.9%である。

府の総合学科高校は「特色づくり・再編整備計画」に先立って平成 8 年度から設置されており、イメージがある程度定着しているものと思われる。

【質問 10】「総合学科」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
21.8%	61.7%	15.8%	0.5%	0.2%
肯定的 83.5%		否定的 16.3%		
【質問 11】「総合学科」は、生徒のニーズに応えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
14.4%	65.6%	16.0%	1.0%	3.1%
肯定的 79.9%		否定的 17.0%		
【質問 12】「総合学科高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 ></p> <p>目的意識のある生徒のニーズ、生徒の興味・関心に対応している。 科目選択のガイダンスや生徒一人一人にあった進路実現によく努力している。 普通科総合選択制との違い、他の総合学科高校との違い、選択科目等の内容がわかりにくい。 独自性が見えない学校、多様な選択科目といいながら進学にシフトしている学校がある。</p> <p>< 入学者選抜の状況 ></p> <p>中学校 3 年生の段階では自分の進路・適性等を考え、選択することは難しい。総合学科の特色を理解せず、選抜の時期や学校名だけで選択した生徒も少なくない。 学びたい教科・科目のある総合学科高校が遠方のため進学できなかった。</p> <p>< 学校生活の状況 ></p> <p>総合学科に進学した生徒が以前より生き生きとしており、学校として活性化している。 科目選択で、自分の目的・目標がきちんとつかめた上で選択できているのかを知りたい。 施設・設備の整備、担当する教員の負担増への対応、専門教員の確保や担当教員の技量の保障ができているのか。 総合学科は生徒に選択力が求められるが、しっかりした目標が持てない生徒が問題。 選択科目は選択者が少数数であっても開講されているのか。</p> <p>< 進路状況 ></p> <p>総合学科を卒業した生徒のその後の進路や活躍・実績の検証、生徒・保護者や中学校への情報提供が必要である。</p> <p>< その他 ></p> <p>総合学科の今後の更なる充実に期待する。 総合学科の特色・内容の周知、教職員の意識改革には一定の時間が必要。総合学科高校の生徒の生の声を聞きたい。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《系列》総合学科では、「食と生命を科学する」系列、「自然科学とテクノロジー」系列、「理数」系列、「国際コミュニケーション」系列、「自己を表現する」系列、「健康」系列など、体系性や専門性等において相互に関連する総合選択科目をまとめた系列を設置している。総合学科高校に進学したことにより、生徒は、系列を科目選択の目安として、専門教科と普通教科の両方にわたって設置された多くの科目から、自らの興味・関心や進路希望により科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくんでいる。

《学校生活》系列・選択科目の設置による多様な教育内容の提供が、生徒の興味・関心・目的意識を深めることに役立っている。また、総合学科への改編により、多くの学校で部活動や学校行事が活性化した。生徒アンケートでは、「総合学科で学んでよかった」「科目選択については選びたい科目を選べた」という質問について8割以上の生徒が肯定的に回答しているなど、全般的に生徒の満足度は高い。

《キャリア教育》科目選択時に適切なサポート等をするため、各総合学科高校において個々の生徒の興味・関心や進路希望を踏まえたキャリア教育の推進、ガイダンス機能の充実が進んでいる。さらに、総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」や「課題研究」等が効果的に活用され、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などを高める教育活動が充実した。

《進路状況》卒業後の進路については、改革後、未定者を含む「その他」が半減した。

（２）課題

《広報》総合学科の概要についての周知は進んでいるが、中学校等アンケートによると、総合学科の科目選択の状況や卒業生の進路状況等について情報提供を望む意見もある。広報活動は今後も継続し、広報内容のさらなる工夫にも取り組む必要がある。

《選抜制度》総合学科の選抜について、「早く決めたいという理由で前期選抜校を選ぶ生徒がいる」などの意見もあり、中学校での進路指導との連携が必要である。

2 普通科総合選択制高校

1. 普通科総合選択制高校の理念及び特色

（1）設置理念

普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。（全体計画）

（2）特色

基礎学力の充実

「エリア」の設置による、興味・関心にあった学習の展開

多様なエリア指定科目・自由選択科目の開設

進路実現の力の育成

2. 府における普通科総合選択制高校

学校名	開校年度	所在地等
福井	平成 13 年度	茨木市西福井 単独改編
門真なみはや		門真市上島頭 門真高校と門真南高校との統合
八尾翠翔	平成 14 年度	八尾市神宮寺 八尾東高校と八尾南高校との統合
日根野		泉佐野市日根野 単独改編
豊島	平成 15 年度	豊中市北緑丘 単独改編
西成		大阪市西成区津守 単独改編
成美		堺市南区城山台 美木多高校と上神谷高校との統合
大正	平成 16 年度	大阪市大正区泉尾 単独改編
枚方なぎさ		枚方市磯島元町 磯島高校と枚方西高校との統合
かわち野		東大阪市新庄 盾津高校と加納高校との統合
金剛		富田林市藤沢台 単独改編
伯太		和泉市伯太町 単独改編
緑風冠	平成 18 年度	大東市深野 大東高校と南寝屋川高校との統合
北摂つばさ	平成 19 年度	茨木市玉島台 茨木東高校と鳥飼高校との統合

【普通科総合選択制高校の設置エリア】

学校名	開校年度	設置エリア名
福井	平成 13 年度	国際コミュニケーション、福祉ヒューマニティ、スポーツ健康、情報表現、環境自然、理数
門真なみはや		国際、情報、福祉、人文芸術、スポーツ、自然科学
八尾翠翔	平成 14 年度	英語専攻、人文社会、体育専攻、理数専攻、看護医療
日根野		人文科学探究、理数科学探究、国際文化探究、人間環境探究、自己表現探究
豊島	平成 15 年度	人間文化、理数科学、マイスポーツ、情報・表現、英語総合、生活科学
西成		人文社会、保育・教育、生活・健康、福祉・介護、科学・情報、芸術・文化
成美		情報、福祉・こども、国際理解、自己創造、人文地域、自然科学
大正	平成 16 年度	美術創造、文理総合、情報表現、生活健康、国際理解
枚方なぎさ		理数・自然、人文・社会、英語・文化、生命・人間、生活・地域、芸術・情報
かわち野		情報技術、環境科学、国際理解、創造・表現、生活・福祉、河内モノづくり
金剛		理数科学、生命科学、情報、生活文化、国際、人文
伯太		生活・現代、創造・表現、地域・文化、国際・環境、スポーツ・健康、メディア・情報
緑風冠	平成 18 年度	人文・文化、理数・自然、英語・国際、生命・環境、表現・活動、人間・教育
北摂つばさ	平成 19 年度	生命・エコロジー、保育・福祉、学び探究、国際理解、情報とくらし、アート・スポーツ

3 . 普通科総合選択制高校の状況

(1) 入学者選抜の状況

多くの学校で改革前に比べ志願倍率が上昇しており、前期入学者選抜に移行した平成 17 年度以降は 1.6 倍前後で推移している。

【志願倍率（平均）】

年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
平均	1.17	1.11	1.17	1.13	1.70	1.57	1.59

【志願倍率（各校別）】

は、改革前

校名	開校年度	母体校	志 願 倍 率							
			平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
福井	平成 13 年度	福井	1.15	1.29	1.13	1.10	1.15	1.53	1.34	1.34
門真なみはや	平成 13 年度	門真	1.04	1.02	1.18	1.00	1.10	2.33	1.36	1.43
		門真南	1.10							
八尾翠翔	平成 14 年度	八尾南	1.16	1.19	1.01	1.10	1.00	1.77	1.53	1.70
		八尾東	1.03	1.14						
日根野	平成 14 年度	日根野	1.22	1.10	1.13	1.19	1.20	1.70	2.12	1.68
豊島	平成 15 年度	豊島	1.25	1.39	1.26	1.34	1.10	1.65	1.63	2.09
西成	平成 15 年度	西成	1.18	1.21	1.07	1.06	1.10	1.25	1.09	1.06
成美	平成 15 年度	上神谷	1.20	1.50	1.37	1.36	1.13	1.61	1.76	1.54
		美木多	1.13	1.31	1.18					
大正	平成 16 年度	大正	1.17	1.41	1.29	1.07	0.95	1.44	1.30	1.32
枚方なぎさ	平成 16 年度	枚方西	1.15	1.17	1.17	1.10	1.14	1.68	1.58	1.53
		磯島	1.11	1.23	1.03	1.03				
かわち野	平成 16 年度	加納	1.26	1.34	1.18	1.21	1.07	1.40	1.20	1.36
		盾津	1.09	1.17	0.98	1.01				
金剛	平成 16 年度	金剛	1.10	0.99	1.11	1.15	1.30	1.98	2.02	1.54
伯太	平成 16 年度	伯太	1.28	1.31	1.40	1.27	1.31	2.11	1.68	1.95
緑風冠	平成 18 年度	南寝屋川	1.08	1.18	1.09	1.11	1.18	1.13	1.77	1.54
		大東	1.04	1.00	1.09	1.05	1.12	1.10		
北摂つばさ	平成 19 年度	鳥飼	1.18	1.16	1.21	1.13	1.04	0.99	1.17	1.98
		茨木東	1.29	1.17	1.27	1.13	1.11	1.14	1.20	
普通科総合選択制平均倍率				1.17	1.11	1.17	1.13	1.70	1.57	1.59

（ 2 ）基礎学力の重視と選択幅の拡大

基礎学力を重視する取組みとして、習熟度別授業、少人数授業、英語検定や漢字検定等の資格取得の取組み及び補習・講習などを実施している。

設置エリアは5から6。エリア指定科目（8単位から12単位）は24科目から51科目を設置している。

自由選択科目は47科目から97科目、そのうち学校設定科目は18科目から60科目である。専門科目を10科目以上設置している学校は3校ある。平均開講率は85%である。

【普通科総合選択制高校の設置科目数の平均（平成18年度）】

エリア指定科目数	自由選択科目数	学校設定科目数	専門科目数
24～51	47～97	18～60	2～13
	平均 70	平均 35	平均 7

（ 3 ）学校の活力 その1 ～ 学校行事の活性化 ～

学校からの報告によると、

- ・エリア学習は、「自分を表現する力」「発表する力」「相手とコミュニケーションする力」の育成にも重点をおいている結果、生徒はそれらの力を身に付け体育祭・文化祭に積極的に取り組んでいる。例えば、体育祭では応援団の参加者が増加し、文化祭では長時間の準備を必要とする舞台発表、演劇等を希望するクラスが増加している。
- ・総じて生徒は目的意識を持って入学し、「自分が選んだ学校」として主体的・積極的に活動し、学校行事にも意欲的に取り組んでいる。

としている。

（ 4 ）学校の活力 その2 ～ 部活動の活性化 ～

部活動加入率の改革前の状況と平成18年度の状況は下表のとおりである。ほとんどの学校で部活動加入率は上昇している。

【部活動加入率】

	改革前年度	平成18年度
部活動加入率	34.4%	47.8%

改革前年度のデータは、下記対象校の開校前年度のデータを平均したものの

《データの対象校》豊島・福井・大正・門真なみはや・枚方なぎさ・八尾翠翔
かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野・緑風冠

（５）学校の活力 その３ ～ 中退率の変化 ～

改革前と改革後の中退率の変化は下表のとおりであり、普通科総合選択制高校全体としての中退率は下がっている。

【中退率】

	改 革 前		改 革 後		
	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
中退者数	599人	616人	298人	299人	336人
中 退 率	4.53%	5.07%	3.86%	3.61%	3.86%

《データの対象校》

豊島・福井・大正・門真なみはや・枚方なぎさ・八尾翠翔
かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野

（６）普通科総合選択制高校における進路選択の状況

進路選択の状況は、「就職」の割合が下がり、「大学」の割合が上昇した。また、未定者を含む「その他」が半減したことが特徴的である。

【進路状況】

	年度	卒業者数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
改革前	平成 9 年度	1,675 人	14.7% (246 人)	22.4% (376 人)	24.8% (415 人)	20.7% (347 人)	17.4% (291 人)
	平成 10 年度	1,564 人	17.5% (273 人)	17.8% (279 人)	29.5% (462 人)	18.4% (288 人)	16.8% (262 人)
改革後	平成 16 年度	941 人	27.1% (255 人)	19.3% (182 人)	31.2% (294 人)	10.9% (103 人)	11.4% (107 人)
	平成 17 年度	936 人	33.3% (312 人)	16.7% (156 人)	31.4% (294 人)	9.3% (87 人)	9.3% (87 人)
	平成 18 年度	945 人	37.8% (357 人)	18.1% (171 人)	27.9% (264 人)	8.1% (77 人)	8.0% (76 人)

《データの対象校》 福井・門真なみはや・八尾翠翔・日根野

4. アンケート

(1) 生徒アンケート

アンケート調査は平成 18 年 12 月～平成 19 年 1 月に普通科総合選択制高校の校長会が実施した。対象は、平成 18 年度に普通科総合選択制の 3 年生が在籍している 12 校（豊島・福井・大正・枚方なぎさ・門真なみはや・八尾翠翔・かわち野・西成・金剛・成美・伯太・日根野）の 3 年生である。

「普通科総合選択制で学んでよかった」に肯定的回答（「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の回答の計）をした者が 76.4% 「エリアの学習は興味・関心を満足させた」に肯定的回答をした者は 64.8%、「自由選択科目は選みたい科目を選ぶことができた」に肯定的回答をした者は 70.6% である。

「エリア選択のガイダンスは十分であった」に対する肯定的回答は 60% 弱であり、他の項目に比べてやや低くなっている。情報提供・個別相談・助言など、ガイダンス機能の一層の充実が求められている。

文章での回答欄に書かれた生徒の感想では、「自分の受けたい授業を選択したため、学校での時間が過ぎるのがとても早く感じた」「勉強をさせられている感じがなく、自分のために勉強するのだと思うようになった」「専門的な知識や普通科では学べない知識を学ぶことができた」「自分の進路を考える機会が多くあり、自分の将来を真剣に考える事ができた」などがあった。

【回答結果】

質 問 項 目	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
普通科総合選択制の高等学校で学んでよかった	26.2%	50.2%	17.3%	6.2%
	76.4%			
1 年生のとき、2 年次のエリア選択のガイダンス（説明や相談）は十分であった	15.2%	43.2%	30.8%	10.8%
	58.4%			
2 年生のとき、3 年次のエリア選択のガイダンス（説明や相談）は十分であった	16.2%	43.4%	29.7%	10.7%
	59.6%			
ガイダンスブック（シラバス）は十分役に立った	11.6%	38.1%	34.4%	15.8%
	49.7%			
エリアの学習は自分の興味・関心を満足させた	21.9%	42.9%	25.9%	9.3%
	64.8%			
卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連がある	23.3%	25.0%	20.4%	31.3%
	48.3%			
自由選択科目の科目選択については、選みたい科目を選ぶことができた	26.1%	44.5%	21.5%	7.9%
	70.6%			
自由選択科目は進路を考える上で役にたった	17.6%	35.1%	29.6%	17.6%
	52.7%			

（ 2 ）中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、普通科総合選択制高校については下記のような結果であった。

「普通科総合選択制高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 15.1%、肯定的回答は 73.4%である。

「普通科総合選択制高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 8.9%、肯定的回答は 72.0%である。

否定的回答については、普通科や総合学科との違い、エリア・自由選択科目の内容などがわかりにくいものと思われる。

【質問 13】「普通科総合選択制高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
15.1%	58.4%	25.6%	0.5%	0.5%
肯定的 73.4%		否定的 26.1%		
【質問 14】「普通科総合選択制高校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
8.9%	63.2%	22.7%	1.2%	4.1%
肯定的 72.0%		否定的 23.9%		
【質問 15】「普通科総合選択制高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 > 目的意識のある生徒のニーズ、生徒の興味・関心に対応している。 普通科や総合学科との違い、普通科総合選択制の特色、エリアの内容などがわかりにくい。 普通科総合選択制各校の特色の違いが明確でない。普通科総合選択制各校の教育内容が同じものになっている。</p> <p>< 入学者選抜の状況 > 希望者は毎年多い。人気は高い。 前期選抜で当該校の評価が高まった。 早く決めたい生徒が集中する。学校名だけで選択した生徒も少なくない。 後期選抜にしてほしい。 教育内容よりランクで判断されている。入試の難易度で選ばざるをえない。</p> <p>< 学校生活の状況 > 進学した生徒は概ね満足している。 自分の目的・目標をふまえた科目選択ができているのかどうかを知りたい。</p> <p>< 進路状況 > 生徒の一人ひとりにあった進路の実現によく努力している。 普通科総合選択制高校を卒業した生徒のその後の進路や活躍・実績の検証、情報提供が必要である。</p> <p>< その他 > 普通科希望者が多い。普通科を減らしすぎである。 総合学科に比べ人的・物的条件が不十分である。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《エリア・自由選択科目》大阪府独自の制度である「普通科総合選択制高校」における、「保育・福祉」「スポーツ」「理数科学」「人文」「国際」等のエリアと自由選択科目の設置による多様な教育内容の提供が、生徒の興味・関心・目的意識を深めることに役立っている。

《学校生活》普通科総合選択制への改編により、生徒の興味・関心にあったエリア・自由選択科目が設置され、多様な学びが可能となったことなどから、多くの学校で学校行事や部活動が活性化し、中退率が下がった。生徒アンケートでは、「普通科総合選択制の高等学校で学んでよかった」という設問の肯定的回答が76.4%となっているなど、全般的に生徒の満足度は高い。

《キャリア教育》エリア選択・自由選択科目選択へのサポートの必要性から、ガイダンス機能が充実し、また、将来の職業や生き方・あり方を考えさせるキャリア教育が促進された。

《進路状況》卒業後の進路は、改革後、未定者を含む「その他」が各校平均で半減した。

（２）課題

《特色ある科目》多様な科目、特色ある科目の運営・充実のために、普通科総合選択制に対する人的措置、特色ある科目を担当する教員の配置に加え、「カリキュラム NAVi プラザ」などを活用した、特色ある科目にかかわる研究会・研修会・交流会などの企画、特色ある科目の教材の蓄積・発信・活用などの支援策について、研究・検討が必要である。

《ガイダンス》エリア選択・科目選択をサポートするために、高校におけるガイダンス機能やキャリア教育が促進されたが、情報提供・個別相談・助言などのガイダンス機能の一層の充実が求められている。

《広報》中学校等アンケートによると、普通科総合選択制の概要についての周知は進んでいるが、教育内容の詳細については、「普通科や総合学科との違いがわかりにくい」などの意見もある。広報活動を今後も継続し、広報内容のさらなる工夫にも取り組む必要がある。

《選抜制度》普通科総合選択制の選抜に関する、「後期選抜の高校選択肢が少ない」「早く決めたいという理由で前期選抜校を選ぶ生徒がいる」などの意見をも踏まえて、選抜について研究する必要がある。

3 工科高校

1. 工科高校の理念及び特色

（1）設置理念

産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに、再編整備を実施する。（全体計画）

（2）特色

専門分野の〔深化〕と高度な専門性を身に付けるための高等教育機関への〔接続〕
 学科ごとの募集から総合募集へ

1年生で工業の基礎知識を学び、2年生からの系・専科で専門分野を幅広く学ぶとともに知識・技術・技能の深化を図る。

2. 府における工科高校

学校名	開校年度	設置系（専科）名	所在地
西野田工科	平成 17 年度	機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子制御） 建築都市工学系（建築システム・都市工学） 工業デザイン系（工業デザイン）	大阪市福島区大開
淀川工科		機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	大阪市旭区太子橋
今宮工科		機械系（機械技術・生産技術） 電気系（電気技術・電子制御） 建築系（建築設計・建築生産） グラフィックデザイン系（グラフィックデザイン）	大阪市西成区出城
茨木工科		機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子情報通信） 環境化学システム系（環境システム・化学システム）	茨木市春日
城東工科		機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	東大阪市西鴻池町
布施工科		機械系（機械技術・生産技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子情報通信） 建築設備系（建築システム・設備システム）	東大阪市宝持
藤井寺工科		機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子情報通信） メカトロニクス系（ロボット工学・制御システム）	藤井寺市御舟町
堺工科		機械系（機械技術・機械制御） 電気系（電気技術・電子制御） 環境化学システム系（化学分析技術・環境システム）	堺市堺区大仙中町
佐野工科		機械系（機械技術・機械設計） 電気系（電気技術・電子制御） テキスタイル系（プロダクト工学・デザイン工学）	泉佐野市高松東

3. 工科高校の状況

（1）入学者選抜の状況

平成 17 年度、工科高校への改編にともない、その取組み内容についての周知状況や平成 19 年度の通学区域改正などにより志願状況に偏りがあるが、工科高校全体の志願倍率は 1.2 倍程度となっている。

【工業、工科高等学校の選抜における志願倍率】

学校名	選 抜 年 度				
	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
西野田工科	1.08	1.41	1.10	0.96	1.16
淀川工科	1.32	1.35	1.13	1.14	0.98
今宮工科	1.04	1.34	1.02	1.05	1.06
茨木工科	1.60	1.45	1.15	1.08	1.39
城東工科	1.36	1.45	1.17	1.18	1.17
布施工科	1.11	1.41	1.12	1.23	1.20
藤井寺工科	1.33	1.31	1.18	1.21	1.14
堺工科	1.35	1.31	1.42	1.41	1.25
佐野工科	1.59	1.60	1.74	1.56	1.59
府立工業・工科高校 全体の募集定員	3,000 人	2,960 人	2,800 人	2,800 人	2,800 人
府立工業・工科高校 全体の志願者数	3,925 人	4,193 人	3,419 人	3,355 人	3,396 人
府立工業・工科高校 全体の志願倍率	1.31 倍	1.42 倍	1.22 倍	1.2 倍	1.21 倍

上の表で、平成 16 年度までは府立の工業高校は 12 校（表の 9 校と成城工業、東住吉工業、和泉工業、総募集学級数は 75 または 74 学級）。

平成 17 年度選抜からは、工科高校 9 校（総募集学級数 70 学級）

（2）総合募集と系・専科の選択

これまでの電気科、機械科のような小学科による選抜ではなく、工業の基礎・基本となる内容を幅広く学ぶために入学時は工業科という大学科で選抜する総合募集を実施している。

1 年生で学んだ基礎的内容をもとに、2 年生から系・専科を選択して専門的な内容を深めている。ガイダンスの科目や生徒・保護者への説明会、懇談会、個別の相談会などを通して、これまで 2 年間、生徒の希望に沿った系・専科の選択になっていると報告がある。

【系・専科の選択に係る説明会等の実施状況】

		回数や時期（年間で）	具体的内容
生徒・保護者への説明会など	生徒対象の説明会	平均 4 ～ 5 回	ガイダンスの科目や全体説明会・系別の説明会など
	生徒対象の相談会	平均 3 回程度実施。 希望があれば随時対応。	担任や系長・系の教員などと相談
	保護者対象の説明会	2 回程度実施	系・専科についての説明と選択手順についての説明など
	保護者対象の相談会	平均 2 回実施。 希望があれば随時対応。	系・専科の希望状況や意思決定にかかわる相談
授業	授業での取り組み	授業の中で 3 ～ 10 回実施	ガイダンスの科目やホームルームなどで担任や科目担当者から説明
指導	進路係の相談会	1 回程度	進路希望者別説明会や全体進路説明会を実施

（ 3 ）〔深化〕及び〔接続〕の取り組みの状況

2 年生から選択する系・専科には、それぞれ〔深化〕や〔接続〕に対応した教育課程を設定している。

工科高校への再編整備に伴い、各系に必要な専門分野の新しい知識と技術・技能を習得し、新しい工業教育に資するため、教員対象の「工科高校スキルアップ研修」を平成 16 年から 3 ヶ年間実施し、各年平均 50 名程度の教員が受講した。（府立工業高等学校及び府立工業高等学校から再編整備した学校の工業担当教員対象）

校内で「深化委員会」などを設置し、新しい工業教育を進めている。また、積極的に地域と交流して生徒の技術発表の場を設定している学校や、大学のコンテストや全国規模の大会・コンクールに参加させ、優秀な成績を上げている学校もある。

工業に関する技術や技能の資格取得を積極的に取り組み、また奨励や表彰にも努めている。

〔接続〕の取り組みとして、高等教育機関への進学を希望する生徒に対して、放課後や長期休業中に講習や補習を実施し、学力の向上を支援している。

工科高校の校長会が中心となって工学系学部を設置する大学などの進路開拓を行っている。

（ 4 ）部活動の加入状況

部活動の加入率は、平成 16 年度から平成 18 年度まで、50%程度を推移している。

【部活動加入率の状況】

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
工科高校全体の平均	50.9%	51.0%	49.5%

表の対象校は、工科高校に改編した 9 校の工業高校で、平成 17 年度、18 年度は工業高校・工科高校の生徒で、全在籍者に対する全加入者数の割合。

（ 5 ）中退率の変化

中途退学の状況は、平成 16 年度から平成 18 年度まで、8 %前後を推移している。（ 1 年生）

【工業・工科高校における中途退学者の状況】

		平成 16 年度	中退率	平成 17 年度	中退率	平成 18 年度	中退率
工科 全体	1 年中退者合計	195 人	8.2%	223 人	7.8%	271 人	9.3%
	1 年在籍者合計	2,371 人		2,842 人		2,905 人	

平成 16 年度は工科高校に改編した 9 校の工業高校、平成 17 年度、18 年度は工科高校の生徒が対象。

4 . アンケート

（ 1 ）生徒アンケート

平成 18・19 年度、工科高校生徒意識調査（アンケート）を実施した。意識調査の対象は 1・2 年生とした。

「工業に関する事がらで興味・関心があるもの」については、1・2 年生とも「エンジンの構造」「コンピュータ」等に関心が高く、「金属加工」、「ロボット製作」、「金属溶接」、「住宅建築」などが続いている。

1・2 年生とも就職希望者が 50% 台であり、これは、1 年生意識調査の受験理由の「就職に有利」と答えた割合とほぼ一致している。進学希望者は、1・2 年生とも 20% 程度である。

系・専科の選択に関する説明会等の理解度については、「よくわかった」「だいたいわかった」という肯定的回答が、平成 19 年度は 76.7%（平成 18 年度は 72.9%）であり概ね生徒に理解されている。

【 1 年生生徒意識調査】

Q . 本校を受験した理由について

(1) 学習面について	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
工業の勉強がしたい	1,416 人	50.6%	1,407 人	49.3%
どちらかというとなりたい	727 人	26.0%	794 人	27.8%
勉強内容は重視しない	616 人	22.0%	623 人	21.8%
(2) それ以外の理由	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
就職に有利	1,720 人	61.5%	1,708 人	59.8%
大学進学が可能	243 人	8.7%	261 人	9.1%
クラブ活動	201 人	7.2%	210 人	7.4%
通学に便利	247 人	8.8%	264 人	9.2%
家族や先輩が行っていた	177 人	6.3%	249 人	8.7%
保護者の仕事柄	68 人	2.4%	79 人	2.8%
その他	160 人	5.7%	141 人	4.9%

Q . 次の工業に関する事からのなかで、興味・関心があるものはどれですか。（回答は3つまで）

	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
エンジンの構造	918 人	32.8%	947 人	33.2%
コンピュータ	861 人	30.8%	774 人	27.1%
金属加工	717 人	25.6%	763 人	26.7%
住宅建築	623 人	22.3%	573 人	20.1%
ロボット製作	638 人	22.8%	560 人	19.6%
機械の設計製図	443 人	15.8%	538 人	18.8%
金属溶接	474 人	17.0%	524 人	18.3%
電気工事	401 人	14.3%	476 人	16.7%
住宅設計製図	368 人	13.2%	379 人	13.3%
電子工作	413 人	14.8%	317 人	11.1%
家具インテリア	302 人	10.8%	290 人	10.2%
無線通信	194 人	6.9%	243 人	8.5%
服飾デザイン	213 人	7.6%	187 人	6.5%
太陽光風力発電	207 人	7.4%	184 人	6.4%
グラフィック製品	186 人	6.7%	175 人	6.1%
橋道路の建設	155 人	5.5%	137 人	4.8%
空調水道ガス配管	138 人	4.9%	133 人	4.7%
薬品成分分析	90 人	3.2%	117 人	4.1%
石鹼の製造	89 人	3.2%	103 人	3.6%
その他	84 人	3.0%	77 人	2.7%

Q . 将来の進路希望について

	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
進学	602 人	22.3%	564 人	20.6%
就職	1,575 人	58.3%	1,685 人	61.4%
その他	46 人	1.7%	45 人	1.6%
未定	479 人	17.7%	449 人	16.4%

【2年生生徒意識調査】

Q. 2年次の系・専科を選ぶ際の説明について、当てはまること

	平成 18 年度				平成 19 年度			
	人数		割合		人数		割合	
よくわかった	267 人	1,633 人	11.9%	72.9%	274 人	1,779 人	11.8%	76.7%
だいたいわかった	1,366 人		61.0%		1,505 人		64.9%	
あまりわからない	436 人	607 人	19.5%	27.1%	433 人	539 人	18.7%	23.3%
まったくわからない	171 人		7.6%		106 人		4.6%	

Q. 次の工業に関する事からの中で、興味・関心があるものはどれですか。（回答は3つまで）

	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
エンジンの構造	761 人	31.5%	807 人	32.8%
コンピュータ	708 人	29.3%	695 人	28.2%
金属加工	488 人	20.2%	521 人	21.1%
金属溶接	445 人	18.4%	492 人	20.0%
ロボット製作	450 人	18.6%	432 人	17.5%
住宅建築	339 人	14.0%	411 人	16.7%
電気工事	353 人	14.6%	398 人	16.2%
インテリアデザイン	318 人	13.2%	342 人	13.9%
電子工作	304 人	12.6%	328 人	13.3%
グラフィックデザイン	278 人	11.5%	286 人	11.6%
住宅設計製図	197 人	8.2%	230 人	9.3%
服飾デザイン	234 人	9.7%	225 人	9.1%
機械設計製図	248 人	10.3%	206 人	8.4%
太陽光風力発電	183 人	7.6%	191 人	7.8%
無線電信	137 人	5.7%	135 人	5.5%
橋道路建設	121 人	5.0%	136 人	5.5%
薬品成分分析	99 人	4.1%	109 人	4.4%
空調水道等配管	79 人	3.3%	107 人	4.3%
石鹼の製造	83 人	3.4%	71 人	2.9%
その他	97 人	4.0%	60 人	2.4%

Q. 現在の希望進路について

	平成 18 年度		平成 19 年度	
	人数	割合	人数	割合
進学	566 人	25.6%	530 人	23.4%
就職	1,294 人	58.6%	1,359 人	60.1%
その他	40 人	1.8%	40 人	1.8%
未定	309 人	14.0%	333 人	14.7%

（ 2 ） 中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、工科高校については下記のような結果であった。

「工科高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 40.9%、肯定的回答は 91.6%である。

「工科高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 26.1%、肯定的回答は 84.9%である。

【質問 25】「工科高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
40.9%	50.7%	7.4%	0.5%	0.5%
肯定的 91.6%		否定的 7.9%		
【質問 26】「工科高校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
26.1%	58.9%	12.0%	1.0%	2.2%
肯定的 84.9%		否定的 12.9%		
【質問 27】「工科高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 入学者選抜の状況 ></p> <p>入試の段階では細かな興味・関心、適性が分からない生徒が多いので、入学して 1 年間、工業に関する基礎学習を受けた後、2 年生で学科を選択するのはとてもよい。</p> <p>1 年生で、幅広く工業の基礎的な知識が得られるのでよい。</p> <p>2 年生からの学科（系・専科）選択で、希望する学科に進めず不満を持つ生徒もいると聞く。</p> <p>2 年生からの系・専科の選択に際して、希望するところに進めるよう、一層努めて欲しい。</p> <p>< 教育課程 ></p> <p>技術立国の日本として技術者を育てることは重要である。将来のより高度な学習につながる教育の場としての役割もある。生徒たちの側にも希望があり、ニーズに込えている。</p> <p>専門分野を身につけるため、より高度な充実した設備、教育内容を望みたい。</p> <p>< その他 ></p> <p>不本意入学でなく目的意識を持って受験する生徒が増えていると感じている。</p> <p>中学校の教員が「工科高校」の内容をよく理解できていない現状である。教員に向けた資料説明が欲しい。</p> <p>「前期で合格するなら工科高校でもいい」と考える生徒も少なくない。</p> <p>中途退学の原因を解明する必要がある。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《生徒ニーズ》〔総合募集〕の実施により、入学時点では、工業の細かな専門課程を決めず、1年生で幅広く工業技術の基礎・基本を学ぶとともに、きめ細かな専門課程に対するガイダンスをもとに、2年生からの専門学科（系・専科）を選択することができるようになったため、「生徒の興味・関心、適性、進路希望に沿える体制が整った」と中学校からも支持がある。

《専門教育の深化》系・専科に対応した施設や機器などを整備するとともに教員に対するスキルアップ研修の実施により、新しい工業技術教育が進んだ。更に、資格取得や技能審査合格にも積極的に取り組むとともに、各種大会やコンテスト等でも技術の成果を現すようになった。

《高等教育機関への接続》大学等への進学希望者に対応した教育課程を編成するとともに進学希望者に対する講習会等を開催したり、工科高生対象の大学工学部推薦枠の獲得などにより、〔接続〕の取り組みが大きく進んだ。

《大学・企業との連携》大学生のインターンシップ受け入れやものづくり企業における人材を活用しての技術指導講習会の実施など、大学や企業との連携を深めている。また、これまでの大学との連携の取り組みを発展させ、進学後も含めての学びの支援やものづくり人材育成の観点からの相互連携を積極的に進めている。

（２）課題

《特色》「総合募集」や〔深化〕と〔接続〕という特色を活かした教育内容を、更に発展させることが重要である。

《広報》ものづくりに興味・関心のある生徒が、目的意識をもって入学するように、工科高校の教育システムやその取り組み状況、成果について、中学生や保護者などの立場に立った、分かりやすく理解しやすい広報活動の継続が重要である。

《高大連携》高等教育機関への進学者の支援や工科高校の学びの深化を図るため、大学理工学部と教育課程に関わる連携など、新たな連携が望まれる。

4 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）

1. 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）の理念及び特色

（1）設置理念

生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。（全体計画）

（2）特色

多様な生徒のニーズに対応した多様な学びの提供

自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間帯を選択

自分のペースに合わせて三修制または四修制を選択

三修制・四修制 ... それぞれ3年間・4年間で卒業を予定するカリキュラム

（3）教育システム

部（午前部）、部（午後部）など異なる時間帯に教育課程を設け、生徒は所属する部と他の部の教科・科目を履修することによって、学校の授業だけで3年で卒業できるシステムとする。

生徒が自らの進路や適性、興味・関心に基づいた系統的な選択ができるよう、内容的に相互に関連する科目群（普通科では「ワールド」、総合学科では「系列」）を複数設ける。

多様な教育課程を編成できるよう、二学期制で運営する。

多部制、単位制を活用することで、生徒は自分の生活スタイルにあった授業時間帯を選択し、進路や興味・関心に合わせた時間割をつくることができる。

2. 府における多部制単位制高校（クリエイティブスクール）

学校名(学科)	開設年度	設置ワールド・系列名	所在地
咲洲 (普通科)	平成 15年度	マリン、マーケティング、ネイチャー、 アート・カルチャー、コミュニケーション	大阪市住之江区南港中
桃谷 (普通科)	平成 17年度	言語・表現活動、理数・科学、芸術・文化、 健康・生活、文理・探求（は部のみ）	大阪市生野区勝山南
箕面東 (普通科)	平成 17年度	情報・ビジネス、人文・アート、 国際・コミュニケーション、福祉・スポーツ、 環境・サイエンス	箕面市粟生外院
成城 (総合学科)	平成 17年度	数理科学、人文科学、生活デザイン、 情報技術、ものづくり	大阪市城東区諏訪
東住吉総合 (総合学科)	平成 17年度	機械技術、電気技術、住環境、 競技スポーツ、英数、創作表現	大阪市平野区喜連西
和泉総合 (総合学科)	平成 17年度	ものづくり、環境科学、情報科学、生活文化、 教養	和泉市富秋町

3. 多部制単位制高校（クリエイティブスクール）各校の状況

(1) 入学者選抜の状況

一部で志願割れがあったものの、3年間の平均志願倍率は 部、 部ともに 1.2 倍前後である。

【志願倍率】

学校名	部	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
咲洲		1.43	1.08	1.10	1.07	1.15
		1.53	1.15	1.19	1.11	1.04
桃谷				1.13	1.02	1.44
				1.03	1.27	1.52
箕面東				1.44	1.03	1.37
				1.51	1.07	1.43
成城				1.20	1.36	1.01
				1.30	1.48	0.99
東住吉総合				1.00	1.11	1.03
				1.00	1.27	1.00
和泉総合				1.32	1.15	1.34
				1.44	1.60	1.65
平均				1.21	1.12	1.22
				1.27	1.31	1.24

* 咲洲高校のみ平成 15 年度開校

(2) 多様な学びの状況

生徒の興味・関心、進路希望等に対応して、普通科 3 校は平均 114 科目、総合学科 3 校は平均 134 科目設置し、多様な学びを提供している。

大学や専門学校等における学修、技能審査の成果、ボランティア活動や就業体験等に係る学修など学校外における学修に係る単位認定や高等学校卒業程度認定試験の合格科目等の単位認定を行っている。

夜間定時制の課程に学ぶ生徒に対する教育支援の拠点校の役割を担うとともに、自校生徒等に対する教育支援として、土曜日に授業を実施（土曜開講）している。受講登録者数は、6 校合わせて平成 17 年度は 430 人であり、単位修得率は 43.3%、平成 18 年度は 462 人、41.3%であった。平成 19 年度は設置科目数や募集人数が増え、受講登録者数も前年度と比べると約 1.3 倍となっている。

【土曜開講の状況】

	科目数	募集 人数	受講登録者数				単位修得者 割合
			自校生	他校生	社会人	合計	
平成 17 年度	29	635	302	11	121	430	43.3%
平成 18 年度	26	566	339	8	115	462	41.3%
平成 19 年度	30	926	530	2	112	644	

（ 3 ）生徒の学校生活の状況

入学時に三修制を希望する生徒が 6 校平均で 97%前後である。

【三修制希望者の状況】

	平成 17 年度		平成 18 年度		平成 19 年度	
	部	部	部	部	部	部
三修制希望者数	816	415	808	411	798	410
在籍者数	848	430	827	426	820	422
割合	96.2%	96.5%	97.7%	96.5%	97.3%	97.2%

1 年次生の部活動の加入率は以下の表のとおりである。

【 1 年次生の部活動加入状況】

	平成 17 年度 (加入率)	平成 18 年度 (加入率)
部	32.2%	35.6%
部	7.2%	7.7%

（ 4 ）中退率の状況

1 年次生の中退率は、平成 17 年度と比べ平成 18 年度は、部では 2.6 ポイント。部では 7.5 ポイント上がった。

【 1 年次生の中退率】

	平成 17 年度		平成 18 年度	
	中途退学者数	割合	中途退学者数	割合
部	77人	9.1%	97人	11.7%
部	66人	15.3%	97人	22.8%

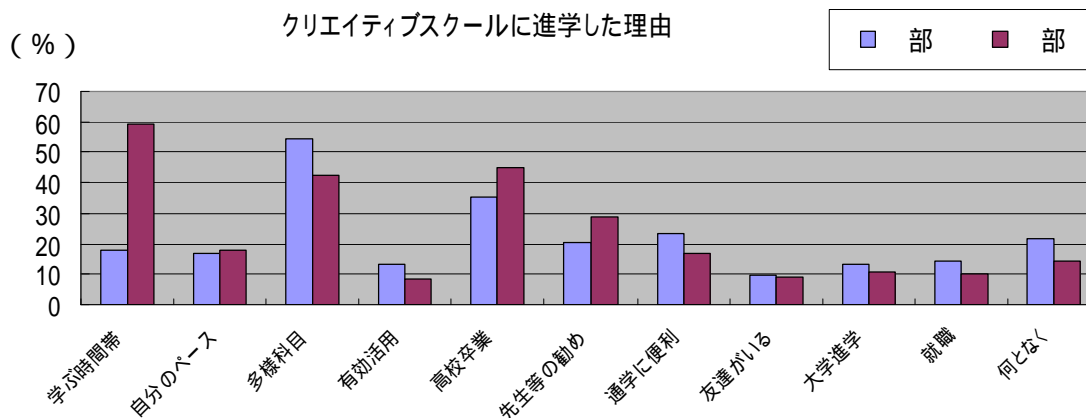
4. アンケート

(1) 生徒アンケート

平成 19 年 7 月に多部制単位制高校の校長会がアンケート調査を実施した。

1 年次生がクリエイティブスクールに進学した理由は、

- ・ 部では「多様な科目選択ができる(54.2%)」、「高校を卒業したかったから(35.5%)」の順である。
- ・ 部では「学ぶ時間帯が選べる(59.1%)」、「高校を卒業したかったから(45.0%)」、「多様な科目選択ができる(42.4%)」の順である。



生徒の満足度

- ・「この学校に入学して満足していますか」の問いに対して、部では、71.6%、部では、70.6%の生徒が肯定的（「満足」と「ほぼ満足」の回答の計）に答えている。
- ・「進学した部に満足していますか」の問いに対して、部では 80%以上、部は、70%以上の生徒が、肯定的に答えている。
- ・選択した科目への満足度は 50%台である。

【生徒アンケートの主な質問】

	部	1 年次生				2, 3, 4 年次生			
		満足	ほぼ満足	少し不満	不満	満足	ほぼ満足	少し不満	不満
入学して満足していますか	部	22.1%	49.5%	20.5%	7.9%				
		71.6%							
進学した部に満足していますか	部	39.2%	43.4%	12.2%	5.2%	52.0%	34.7%	8.1%	5.2%
		81.5%				86.7%			
進学した部に満足していますか	部	20.8%	49.8%	19.7%	9.7%				
		70.6%							
進学した部に満足していますか	部	28.8%	42.8%	17.4%	11.0%	33.8%	37.7%	16.9%	11.6%
		71.6%				71.5%			
選択した科目に満足していますか	部					10.8%	48.6%	30.8%	9.8%
				59.4%					
選択した科目に満足していますか	部					10.8%	43.5%	33.9%	11.8%
				54.3%					

（２）中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、多部制単位制高校については下記のような結果であった。

「多部制単位制高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 15.8%、肯定的回答は 70.8%である。

「多部制単位制高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 14.4%、肯定的回答は 64.1%である。

平成 17 年度に開校した新しいタイプの学校であり、特色や教育内容の定着までには一定の時間が必要と思われる。

【質問 16】「多部制単位制高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
15.8%	55.0%	27.8%	1.2%	0.2%
肯定的 70.8%		否定的 28.9%		
【質問 17】「多部制単位制高校」は、生徒のニーズに応えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
14.4%	49.8%	29.7%	2.6%	3.6%
肯定的 64.1%		否定的 32.3%		
【質問 18】「多部制単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 ></p> <p>目的意識を持つ生徒、不登校の生徒、既存の学校の枠に入れない生徒、普通科では積極的に参加できない生徒などが興味・関心を持って通学している。退学に歯止めがかかるなど多様な学び方に応えた形態である。</p> <p>夜間定時制への不本意入学者が多かったが、夜間定時制より生徒のニーズに合っている。生活リズムによって時間帯を選べることは素晴らしい。</p> <p>新しいタイプの学校であり、3年担当以外の教員や生徒や保護者が理解できていない。高校段階で、時間的な部分で多様性を持たす必要があるのか、ニーズに応えることを重視し過ぎではないか。</p> <p>今後も生徒一人ひとりのニーズにあった改革を進め、よりきめ細かな対応をしてほしい。</p> <p>< 入学者選抜の状況 ></p> <p>教育課程の理解が不十分なまま選択している者や学力面から選択する者もあり、目的意識のある生徒が進学できているとは思えない場合がある。</p> <p>部希望者が多いので、一括募集し、希望により部を選択させ、1～8時限授業を自由に選べるようにしてほしい。</p> <p>< 学校生活の状況 ></p> <p>ほとんどの生徒は3年間卒業を希望する。</p> <p>3つの部の乗り入れができれば、生徒たちにはプラスに働く。</p> <p>< その他 ></p> <p>学校説明会（在校生のなまの声や映像等）の開催や、わかりやすい情報（従来の定時制との違い、メリット、生徒支援、選択、時間割等）がほしい。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《教育システム》生徒アンケートでは、志願理由として、部では「多様な科目選択ができる」、部では「学ぶ時間帯が選べる」が上位となっており、多部制単位制の特色ある教育システムにより選択している。

《多様な学び》「ワールド」や「系列」における実習・実技・観察等の体験的な学習等、特色ある選択科目や多様な科目の設置、土曜開講の実施などの多様な学びが、生徒の学習意欲を高めている。

《学校生活》多様な生徒に対して、少人数指導やきめ細かい教育相談など適切な指導を行っている。生徒アンケートでは、「入学して満足していますか」の問いに対して、肯定的回答は70%台である。また、中学時代に不登校だった生徒が自分のペースや自信を取り戻して生活している状況がある。

《教育活動》地域のイベントへの参加、「夏休み子ども工作教室」等ものづくり講座の実施、清掃活動及び地域の企業の協力を得て就業体験を実施するなど、様々な取組みを通して地域との連携を深めることにより、生徒に活躍の場を与えている。

（２）課題

《教科指導》多様な学力の生徒に対して、少人数指導や習熟度別学習などのきめ細かな指導など様々な取組みへの継続的な支援が必要である。

《生徒指導》多様な生徒に対して、教育相談やカウンセリング指導など、生徒の自己実現や学校定着を図るための様々な取組みへの継続的な支援が必要である。

《広報》多部制単位制が、多様な学びの場であり、学ぶ時間帯や学ぶペースも選択できるという特色があることや、「昼間の高等学校」の定時制の課程であることなど、特色ある教育システムを中学校の教員や保護者に一層周知する必要がある。

《システム》部の授業時間の設定により、部活動や諸会議の時間の確保が難しいなどの課題があり、生徒の状況を見極めながら引き続き工夫する必要がある。

5 夜間定時制の課程

1. 夜間定時制の課程の理念及び特色

（1）設置理念

新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。（全体計画）

（2）特色

- 単位制を導入し、単位修得を支援する。
- 多様な選択科目を開設し、学習意欲や関心を高める。
- ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実を図る。

2. 府における夜間定時制の課程再配置校

これまでの全日制の課程を対象とした計画進学率を平成17年度より、全日制の課程に多部制単位制（部、部）を含めた「昼間の高等学校」という枠組みに対応した新たな進学率に改めるとともに、29校の夜間定時制の課程を多部制単位制部を含む15校に再配置した。

学校名	再配置年度	学科（設置系列名）	所在地
桜塚	平成17年度	普通科	豊中市中桜塚
春日丘		普通科	茨木市春日
大手前		普通科	大阪市中央区大手前
寝屋川		普通科	寝屋川市本町
布施		普通科	東大阪市下小阪
三国丘		普通科	堺市堺区南三国ヶ丘
桃谷(多部制単位制部)		普通科	大阪市生野区勝山南
西野田工科		総合学科(くらしの機械・電気、教養、生活デザイン)	大阪市福島区大開
今宮工科		総合学科(教養、機械、電気、建築)	大阪市西成区出城
成城(多部制単位制部)		総合学科(ものづくり、情報技術、発見工房、生活デザイン)	大阪市城東区諏訪
茨木工科		総合学科(自動車、ヒューマンサイエンス、機械・システム・エンジニアリング)	茨木市春日
藤井寺工科		総合学科(教養、生活科学、自動車、CAD・ものづくり)	藤井寺市御舟町
堺工科		総合学科(みらい、もの、ひと)	堺市堺区大仙中町
和泉総合(多部制単位制部)		総合学科(ものづくり・ビジネス、パソコン・英会話・教養、自動車整備)	和泉市富秋町
佐野工科		総合学科(技を磨く、モノづくり、生活教養と情報、多文化共生)	泉佐野市高松東

3.夜間定時制の課程再配置校の状況

(1) 夜間定時制の課程の入学者選抜の状況

再配置後最初の選抜である平成 17 年度選抜及び平成 19 年度選抜は、一部の学校で志願倍率が 1 倍を超えた学校があった。

志願倍率が 1 倍を超えた学校の近隣の高校を含む多くの夜間定時制の課程設置校では二次選抜が実施され、さらに補欠募集を行った学校も多かった。

改革前後の平均志願倍率に大きな変化はない。

【志願倍率】

C S 部 ... 多部制単位制 部、平成 15 年度・16 年度の志願倍率は府立 29 校の平均

学 校 名	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
桜 塚	0.70	0.67	1.19	0.86	0.86
春日丘	1.14	0.95	1.35	0.91	1.18
大手前	1.10	0.95	0.56	0.78	0.56
寝屋川	0.85	0.90	1.33	0.97	1.01
布 施	0.65	0.73	0.82	0.83	0.63
三国丘	0.86	0.68	1.04	0.75	1.28
桃谷（C S 部）	1.02	1.14	0.92	0.92	1.22
西野田工科	0.55	0.51	0.66	0.55	0.71
今宮工科	0.79	0.89	0.90	0.55	0.74
成城（C S 部）	0.28	0.25	0.86	0.75	0.49
茨木工科	0.51	0.73	0.63	0.71	0.64
藤井寺工科	0.81	0.69	0.83	0.73	0.53
堺工科	0.56	0.59	0.39	0.49	0.43
和泉総合（C S 部）	1.15	1.08	1.14	0.58	0.63
佐野工科	0.52	0.49	0.64	0.48	0.42
平均志願倍率	0.73	0.69	0.88	0.72	0.73

は競争倍率が 1 を超えたことを示す

二次選抜合格者も含めた収容率については、再配置前後で概ね変化がなく、平成 17 年度以降も夜間定時制の課程へ進学を希望する生徒を十分に受け入れることができる状況である。

【収容率（府立夜間定時制の課程）】

平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
87.6	84.2	93.4	85.2	85.9

収容率(%) = (合格者数 / 募集人数) × 100 収容率の合格者数は二次選抜合格者も含む

府内公立中学校卒業生の進路状況から、夜間定時制の課程への進学率の減少以上に、「昼間の学校」への進学率が増加している。

- ・平成 17 年度の進学率を平成 16 年度と比較すると、夜間定時制高校への進学率は 0.7 ポイント減少し、昼間の学校への進学率は 1.1 ポイント増加している。
- ・平成 18 年度の進学率を平成 16 年度と比較すると、夜間定時制高校への進学率は 0.8 ポイント減少し、昼間の学校への進学率は 1.1 ポイント増加している。
- ・平成 19 年度の進学率を平成 16 年度と比較すると、夜間定時制高校への進学率は 0.9 ポイント減少し、昼間の学校への進学率は 1.0 ポイント増加している。

【大阪府内公立中学校卒業生の進路状況（平成 16 年度から平成 19 年度）】

公立中学校 卒業生総数		平成 16 年度 75,098 人		平成 17 年度 71,654 人		平成 18 年度 71,147 人		平成 19 年度 71,570 人	
校 種		内訳人数	進学率	内訳人数	進学率	内訳人数	進学率	内訳人数	進学率
び 高 高 校 専 及	昼間の学校	68,764	91.6%	66,438	92.7%	65,940	92.7%	66,297	92.6%
	夜間定時制	1,979	2.6%	1,342	1.9%	1,282	1.8%	1,245	1.7%
盲・聾・養護学校		497	0.7%	427	0.6%	491	0.7%	527	0.7%
通信制の課程		1,311	1.7%	1,203	1.7%	1,294	1.8%	1,361	1.9%

昼間の学校 ... 全日制、CS 部を含む

夜間定時制 ... CS 部を含む

平成 16 年度昼間の学校の欄には、桃谷（昼定）を含む。

入学者に占める女子の割合は普通科で 51%、総合学科では 24.2% である。再配置後、工業科から再編した総合学科では普通科目を学習できることから女子の割合が増えている。

【平成 19 年度選抜（後期 + 二次選抜）合格者数及び男女比率】

<普通科>

校 名	桜塚	春日丘	大手前	寝屋川	布施	三国丘	桃谷 (CS 部)	合 計	比 率
募集人員	80	80	80	120	120	80	50	610	-
男子合格者	44	37	31	71	47	29	21	280	49.0%
女子合格者	34	43	44	46	44	51	29	291	51.0%

<総合学科>

校 名	西野田 工科	今宮 工科	成城 (CS 部)	茨木 工科	藤井寺 工科	堺工科	和泉総合 (CS 部)	佐野 工科	合 計	比 率
募集人員	80	80	80	80	120	80	80	120	720	-
男子合格者	47	54	35	66	62	51	56	61	432	75.8%
女子合格者	19	17	19	10	25	10	15	23	138	24.2%

（ 2 ）多様な選択科目の開設

ゼロ時限目授業の開設

- ・平成 17 年度から再配置した夜間定時制の課程（多部制単位制 部を除く）においてゼロ時限目授業を実施している。平成 17 年度は 700 人余りの受講があり、単位修得率は 33.3% であった。平成 18 年度は年度当初からガイダンスなどに力を注いだこともあり、受講生が 800 人余りと増加し、単位修得率も上昇した。平成 19 年度は科目数も増え、受講者数も約 900 人と増加している。

【ゼロ時限目授業実施状況】

	科目数	受講登録者数	単位修得率
平成 17 年度	70 科目	749 人	33.3%
平成 18 年度	70 科目	829 人	37.9%
平成 19 年度	75 科目	895 人	

【平成 19 年度ゼロ時限目授業科目】

学校	科目名	学校	科目名	学校	科目名
桜塚	国語基礎総合	布施	基礎の国語	茨木工科	自動車工学
	国語総合演習		基礎の英語		総合スポーツ
	社会基礎総合		中級の英語		総合スポーツ
	社会総合演習		基礎の数学		総合基礎
	数学基礎総合		数学の演習	藤井寺工科	国語の基礎
	数学総合演習		ビジネスの基礎		趣味の手芸
	理科基礎総合		英会話		自動車と社会
	理科総合演習	太極拳入門	堺工科	ものづくりの基礎	
	英語基礎総合	三味線入門		生活とパソコン	
	英語総合演習	コーラス基礎		健康維持	
囲碁・将棋	デッサン基礎	佐野工科	実用書道		
春日丘	時事中国語		数学基礎	囲碁・将棋	
	ライフスポーツ		応用数学 A	アジアの文化	
	英語演習		家庭総合基礎	総合基礎	
	異文化理解		手話入門	ラビッドリーディング	
	現代史	チャレンジ英語	大阪の歴史		
大手前	現代社会	チャレンジ数学	電気工事基礎		
	イングリッシュパース	チャレンジ読み書き	日本語基礎		
	数楽への道	今宮工科	日本語入門		
	中国語入門		楽しい国語	ワープロ基礎	
	ヘルプセッション		数学入門	危険物取扱基礎	
寝屋川	高校国語入門		数学入門	危険物取扱応用	
	高校数学入門		楽しい英語	交通社会学	
	高校数学応用	社会入門			
	高校英語入門	囲碁・将棋			
	高校英語応用	建築から見たものづくり			
		実用ペン習字			

土曜開講の実施

- ・土曜開講では夜間以外の時間帯に授業を行うことができるため、ものづくり等、時間を要する講座や校外での調査研究活動も可能となり、特色ある授業を展開している。平成 17 年度は夜間定時制の課程 3 校と多部制単位制高校 6 校で実施した。平成 18 年度からは、夜間定時制の課程 12 校と多部制単位制高校 6 校（ ・ 部を含む）で実施し、科目数、募集人数が増加した。単位修得率は平成 17、18 年度とも 40%を超えており、ゼロ時限目授業より高くなっている。

【土曜開講実施状況】

	実施校数	科目数	募集人数 (人)	受講登録者数(人)				単位 修得率
				自校生	他校生	社会人	合計	
平成 17 年度	9	39	732	348	11	125	484	42.0%
平成 18 年度	18	66	1,141	581	9	130	720	42.8%
平成 19 年度	18	63	1,420	776	9	131	916	

柔軟な単位認定

- ・学校外の学修や資格取得を認定するなど柔軟な単位認定を実施している。

【学校外の学修に係る単位認定】

		桜塚	春日丘	大手前	寝屋川	布施	三国丘	茨木工科	西野田工科	今宮工科	藤井寺工科	堺工科	佐野工科	桃谷(CS部)	成城(CS部)	和泉総合(CS部)
学 科		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	普通科	総合学科	総合学科
学校外の学修に係る 単位認定	定通併修															
	高卒程度認定試験															
	技能審査															
	実務代替															
	その他									1						2

- 1 専門学校での学習成果を単位認定
- 2 東大阪テクノセンターとの技能連携を単位認定

（ 3 ）ガイダンス機能とカウンセリング機能の充実

科目選択において、ゼロ時限目授業や土曜開講、学校外の学修等の単位修得を奨める上でも、ガイダンス機能の充実を図っている。

平成 18 年度には夜間定時制において定時制専用教室が整備され、ゼロ時限目授業をはじめ様々な学習指導、生徒指導に活用されている。また、定時制専用の保健室及び相談室も整備され、配置されているハートケア・サポーターを活用してカウンセリング機能の充実も図っている。

（ 4 ）再配置による中退率の変化

再配置後 1 年次生の中退率は減少している。

【 1 年(次)生の中途退学者状況】

（夜間定時制12校と多部制単位制 部 3 校の合計）

	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	人数	中退率	人数	中退率	人数	中退率
1年(次)生の中途退学者合計	497人	35.9%	416人	28.7%	450人	31.8%
1年(次)生の在籍者数	1,383人		1,447人		1,417人	

4. アンケート

(1) 中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、夜間定時制高校については下記のような結果であった。

「夜間定時制高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 36.1%、肯定的回答は 88.3%である。

「夜間定時制高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 16.5%、肯定的回答は 69.9%である。

「夜間に就学を希望する生徒のための学校」というイメージは定着しつつあるが、興味・関心に応じた多様な科目設定などの教育内容の工夫が十分に理解されていない部分があるものと思われる。

【質問 19】「夜間定時制高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
36.1%	52.2%	10.8%	0.5%	0.5%
肯定的 88.3%		否定的 11.2%		
【質問 20】「夜間定時制高校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
16.5%	53.3%	24.2%	2.2%	3.8%
肯定的 69.9%		否定的 26.3%		
【質問 21】「夜間定時制高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 ></p> <p>働きながら学ぶだけでなく、他の理由で夜間定時制を選択する生徒がおり、存在意義は大きい。</p> <p>再編整備により校数が減少し、通学しにくい状況になっている。校数の減少は生徒・保護者のニーズに対応していないのではないか。</p> <p>定時制を必要とする生徒が存在し、また学校によっては倍率が上がっていることから、これ以上校数を減らさないで欲しい。</p> <p>< 入学選抜の状況 ></p> <p>働きながら学ぶ生徒や不登校傾向であった生徒が選り、進路保障につながっている。</p> <p>就労しながら夜間に学ぶ生徒が減少する中で、生活パターンや入試の難易度によって選りする生徒など進学時の意識や動機に課題がある。</p> <p>後期選抜の後に入試を実施してほしい。</p> <p>< 学校生活の状況 ></p> <p>丁寧な指導が行われており、学校は努力されている。</p> <p>通学する生徒は課題を多く抱え、中途退学や不登校になる場合が多くなっている。</p> <p>新しい夜間定時制の内容がわからなかったり、昔のイメージを持たれていることから、PRが必要ではないか。</p> <p>様々な課題を抱える生徒の就学の間となるため、また、魅力ある学校になるため、教育内容の充実をお願いしたい。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《生徒のニーズ》働きながら学ぶ必要がある生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒などの就学の場となっている。

《多様な学び》教科・科目の習熟度に応じた科目を設置し、生徒一人ひとりの個に応じた学びを提供している。また、資格取得をめざす科目、ものづくりを行う科目、校外での調査研究を実施する科目などの多様な科目を設置することで、生徒の興味・関心を深めたり、資格取得に役立っている。

《単位修得》生徒は定時制の授業以外に、定通併修制度、ゼロ時限目授業や土曜開講、学校外の学修や資格取得、高等学校卒業程度認定試験などの様々な制度を活用することで、柔軟な単位の修得に役立っている。

（２）課題

《教育システム》設置理念に基づき、各校の生徒の状況に応じて、単位制・二学期制のシステムを活用し、前期後期ごとの単位認定をはじめとする教育課程の工夫や学校生活を一層充実させる取り組みが必要である。

《教育相談・ガイダンス》中学時代に不登校を経験するなど様々な課題のある生徒に対して、ハートケア・サポーターを活用したり教育相談体制を整えたりしてきめ細かな指導を行っているが、継続的な支援が必要である。

《広報》再配置に伴う単位制の導入や総合学科への改編などの新しい取り組みについて、十分に理解されていない状況から中学校教員や保護者に周知する必要がある。

6 国際・科学高校

1. 国際・科学高校の理念及び特色

（1）設置理念

国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。（全体計画）

（2）特色

科学分野での実験・実習や語学分野での体験学習など、観て、聴いて、感じることを重視した教育を推進する。

英語・情報機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図ることとし、教科学習においても、英語の積極的な活用を図る。

プレゼンテーションの手法を授業に積極的に取り入れ、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。

自国の文化とともに世界の国々の文化や歴史を理解し、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。

海外からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外への留学、語学研修、海外修学旅行など、海外における学習機会を充実する。

大学、研究機関などと連携した先進的な学習を推進する。

科学教育、語学・国際理解教育の取組みの成果を、府立高校全体に発信する。

2. 府における国際・科学高校

学校名	開校年度	設置学科名	所在地
千里	平成 17 年度	国際文化科、総合科学科	吹田市高野台
住吉		国際文化科、総合科学科	大阪市阿倍野区北畠
泉北		国際文化科、総合科学科	堺市南区若松台

3. 国際・科学高校の状況

（1）入学者志願状況（志願倍率）

平成 19 年度入学者選抜における志願倍率は、国際文化科 1.70 倍、総合科学科 1.76 倍である。

【志願倍率】国際文化科

学校名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
千里	1.94	1.63	2.04
住吉	1.31	1.38	1.35
泉北	1.27	1.39	1.71
国際文化 合計	1.51	1.47	1.70

【志願倍率】総合科学科

学校名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
千里	2.38	1.95	1.87
住吉	1.29	1.71	1.65
泉北	1.55	1.15	1.76
総合科学 合計	1.74	1.60	1.76

(2) 特色ある教育活動等

国際文化科では週平均 20 時間程度 C A L L システム (Computer Assisted Language Learning) を活用した授業を実施している。活用内容は、英語のシャドーイング、ディクテーション、リスニング、アナライザーリスニングなどや課題をデータで提出させたりするものがある。

国際文化科では、英語はもちろんのこと、英語以外の外国語講座 (フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語など) も選択科目として開講しており多くの生徒が選択している。

総合科学科では、理数物理・理数化学・理数生物・科学探究基礎において少人数展開授業を実施している。3校でのこれらの授業総時間 (総回数) に対する実験・実習の時間 (回数) の割合は、平均で 37.1% となっている。各校の実験・実習では、20 名程度という少人数であることから出席生徒全員が実験や実習を行うことが可能となっており、各生徒が実際に器具や対象物に触れ観察する体験が重視されている。

総合科学科は、最先端の実験・実習機器を含む理科の実験室の整備がなされたが、これらの機器を一層活用した授業展開が期待されている。

生徒のプレゼンテーション能力の向上のため、平成 16 年度から 3 年間、国際・科学高校の教員対象に「プレゼンテーション研修」を実施し、50 名以上の教員が受講した。

国際・科学高校においては、通常の修学旅行の代わりに、「海外スタディーツアー」を実施している。「海外スタディーツアー」は、訪問する国や地域の事前学習から始まり、海外での実体験に即した交流や現地校との交流、施設見学を行い、また、日本とは異なる自然や環境の中での調査学習や観察・実験などを経て、帰国後の調査成果の発表までの全体を一連の学習ととらえて実施されている。

4. アンケート

(1) 生徒アンケート

CALLシステムの活用により、「英語のコミュニケーション能力が高まった」、「英語の学習内容に興味が高まった」について「よく当てはまる」の回答は4割を超えている。

総合科学科の理科の授業を受けて感じることにについては、肯定的な回答が少ない項目もあり、一層の授業内容等の工夫が望まれている。

【平成18年度学校状況調査について(生徒アンケートより：国際・科学全体)】

CALLシステムの活用状況について

	よく あてはまる	どちらとも いえない	あてはま らない
英語の学習に積極的に取り組むようになった	115 35.2%	142 43.4%	70 21.4%
英語のコミュニケーション能力が高まった	135 41.2%	150 45.7%	43 13.1%
英語の学力が向上した	84 25.7%	178 54.4%	65 19.9%
プレゼンテーション能力が身についた	87 26.5%	160 48.8%	81 24.7%
英語の学習内容に興味が高まった	140 42.9%	132 40.45%	54 16.6%
英語に関する検定試験を受検した。または、しようと思っている	132 40.4%	106 32.4%	89 27.2%
英語の学習について量が多く速度も速くついていけない	100 30.6%	156 47.7%	71 21.7%

総合科学科の理科の授業を受けて感じることにについて

	よく あてはまる	どちらとも いえない	あてはま らない
学習の取り組みが積極的になった	26 10.3%	171 67.9%	55 21.8%
観察したり、実験結果を考察する能力が高まった	61 24.5%	137 55.0%	51 20.5%
理科の学力が向上した	43 17.4%	153 61.9%	51 20.7%
プレゼンテーション能力が向上した	36 14.5%	125 50.4%	87 35.1%
理科の学習内容に興味が高まった	73 29.1%	131 52.2%	47 18.7%
理数の教科・科目が多く、内容が理解できない	96 39.2%	107 43.7%	42 17.1%

（ 2 ） 中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、国際・科学高校については下記のような結果であった。

「国際・科学高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 19.4%、肯定的回答は 71.3%である。

「国際・科学高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 17.9%、肯定的回答は 72.7%である。

国際文化科・総合科学科それぞれの理念・特色や、両科を合わせたトータルとしての理念・特色がわかりにくいものと思われる。

【質問 28】「国際・科学高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
19.4%	51.9%	26.6%	0.7%	1.4%
肯定的 71.3%		否定的 27.3%		
【質問 29】「国際・科学高校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
17.9%	54.8%	19.9%	1.4%	6.0%
肯定的 72.7%		否定的 21.3%		
【質問 30】「国際・科学高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 ></p> <p>中学校段階で、英語（語学、外国）や科学（理数系）に深く関心を持っている生徒が多い。生徒は自分の興味・関心に従って国際・科学高校を選択している。国際・科学高校は特色・目的が明確であり、目的意識を有した生徒には有効な高校である。国際・科学高校というコンセプトがわかりにくい。私学の特進コースのようになっているのではないか。国際文化科と国際教養科、英語科との違い、総合科学科と理数科との違い等がわかりにくい。特色や「国際交流」等の取組みが理解されていない。中学校 3 年生で、自分の進路や適性等から選択するのは難しい。大部分の生徒にとっては基本的な学習が大切である。総合科学科の名称を「実験研究科」などにしてはどうか。</p> <p>< 入学者選抜の状況 ></p> <p>国際・科学高校が近くにないため進学できなかった。増やす方向で検討してほしい。</p> <p>< 学校生活の状況 ></p> <p>進学した生徒は、目的意識を持ち、充実した有意義な高校生活を送っている。</p> <p>< 進路状況 ></p> <p>卒業生の進路情報を提供してほしい。</p> <p>< その他 ></p> <p>進学する生徒が少ない。進学した生徒の生の声を聞きたい。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《生徒のニーズ》語学分野や科学分野に深く興味・関心を持ち、目的意識を持って選択している生徒が入学している。

《教育活動》実習や実験等の時間を多く取って実際に体験・経験させることにより、学習活動の深化・定着を図り、生徒の進路希望の実現に対応している。

（２）課題

《広報》国際文化科、総合科学科の理念・特色や国際教養科、理数科との違いが分かりにくいという意見がある。国際文化科と総合科学科の理念や特色ある教育活動、海外との交流の取組みなどについて、中学校や中学生・保護者にさらに周知を図る必要がある。

7 全日制普通科単位制高校

1. 全日制普通科単位制高校の理念及び特色

（1）設置理念

全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。

（2）特色

生徒一人ひとりが自己の学習ペースに応じて、興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき学習内容を選択することを通して、主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力をはぐくむ。

全日制単位制の趣旨や特色を生かした教育課程を編成し、基礎学力の充実に図るとともに、進路実現にも対応できる多様な選択科目を設置する。

科目選択の参考としてモデルプランや「科目群」を設置する。また、科目の選択指導のため、ガイダンス機能を充実させる。

集中講座や前期後期ごとの単位認定など、単位制の利点を生かせるよう2学期制を実施する。

柔軟な単位制の教育システムを活用し、生徒の状況や進路希望などにあわせた教育課程を編成し、様々な教育活動を展開できる。

2. 府における全日制普通科単位制高校

学校名	開校年度	所在地	備考
長吉	平成13年度	大阪市平野区长吉長原西	単独改編
槻の木	平成15年度	高槻市城内町	高槻南高校・島上高校との統合

3. 全日制普通科単位制高校の状況

（1）入学者選抜の状況

長吉高校の志願倍率は、改革後やや上昇したが、昨年度は1.03倍である。

槻の木高校の志願倍率は改革後上昇し、平成16年以降は2倍前後である。

【志願倍率】

は改革前

学校名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
長吉	1.24	1.28	1.32	1.60	1.23	1.13	1.32	1.03
槻の木		高槻南	1.02	2.91	1.82	1.95	2.19	2.09
		島上	1.31					

（ 2 ）設置科目数

全日制普通科単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望に対応して、自由選択科目として平均 94.5 科目を設定している。

【設置科目数】

設置科目数	共通履修科目数等	自由選択科目数	合計
平均	24	94.5	118.5

（ 3 ）部活動加入率

部活動の加入率は、学校により異なるが、平均すると以下のとおりである。

【部活動加入率】

部活動参加状況	在籍者数	合計(人)	加入率(%)
平成 18 年度	1,391	681	49.0

（ 4 ）進路選択の状況

進路選択の状況は、学校により異なるが、平均すると以下のとおりである。

【平成 18 年度進路状況】

	卒業生数	進 学			就職	その他
		四年制大学	短大	専修学校等		
平均	354	164 (46.3%)	26 (7.3%)	57 (16.1%)	42 (11.9%)	65 (18.3%)

4 . アンケート

（ 1 ）中学校等アンケート

平成 19 年 10 月に実施した中学校等アンケート（第 部資料 3 参照）で、全日制普通科単位制高校については次頁のような結果であった。

「全日制普通科単位制高校」の特色・目的に関する教員の理解については、「よくあてはまる」が 18.7%、肯定的回答は 72.7% である。

「全日制普通科単位制高校」の生徒のニーズへの合致については、「よくあてはまる」が 13.4%、肯定的回答は 65.1% である。否定的回答については、従来の「学年制」への慣れから「単位制」

のイメージがつかみにくい点があるものと思われる。また、2校のスクールカラーが異なるので、回答者がどちらの高校を想定しているかによって回答は違ってくるとと思われる。

【質問 22】「全日制普通科単位制高校」の特色・目的を教員は理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
18.7%	54.1%	25.4%	1.2%	0.7%
肯定的 72.7%		否定的 26.6%		
【質問 23】「全日制普通科単位制高校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
13.4%	51.7%	25.1%	1.7%	8.1%
肯定的 65.1%		否定的 26.8%		
【質問 24】「全日制普通科単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。				
<p>主な回答</p> <p>< 設置理念・特色 ></p> <p>自分の学習ペースに応じて学習できるシステムは必要。単位制高校は趣旨がわかりやすく、生徒のニーズは高い。多様な生徒のニーズに対応している。</p> <p>受験パターンに応じて各生徒が自分にあった選択科目を選択している。</p> <p>全日制普通科単位制の特色・目的や、普通科・総合学科・多部制単位制との違いがわかりにくい。</p> <p>単位制高校だからという理由で選択する生徒は今のところはほとんどいない。</p> <p>単位制高校としての特色がわからない高校、大学受験が目的のような単位制高校がある。</p> <p>進学率の高さによって選んでいる生徒も少なくない。</p> <p>単位制の既存の2校の特色は大きく異なっている。</p> <p>< 入学者選抜の状況 ></p> <p>自分で学習計画を立てることが難しいと思われる生徒も入学している。一人ひとりにあらかじめ細かい対応・指導を望む。</p> <p>学びたい教科・科目のある全日制普通科単位制高校が遠方のため進学できなかった。</p> <p>< 学校生活の状況 ></p> <p>中途退学者が多い。退学者を減らしてほしい。</p> <p>所属クラスがないことに違和感を覚える生徒がいた。クラスとしてのまとまりがなく、行事が盛り上がり、高校生活が味気ないように思える。</p> <p>< その他 ></p> <p>単位制高校への進学者が少なく情報があまりない。在生徒の生の声を聞きたい。</p> <p>今後、多部制単位制として展開することや中高連携モデル校になることを検討してほしい。</p>				

5.まとめ

（１）成果

《多様な学び》柔軟な単位制のシステムを活用した前期後期ごとの単位認定や集中講座、多様な自由選択科目などの設定により、生徒の興味・関心・目的意識を深め、進学や就職等の進路希望に対応した教育内容を提供している。

《キャリア教育》自分で学習計画を立て、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばすために、多様な自由選択科目を選択する際には、各自の興味・関心、能力・適性、進路希望等を踏まえた適切なサポートをする必要があることなどから、キャリア教育を推進し、ガイダンス機能を充実させている。

（２）課題

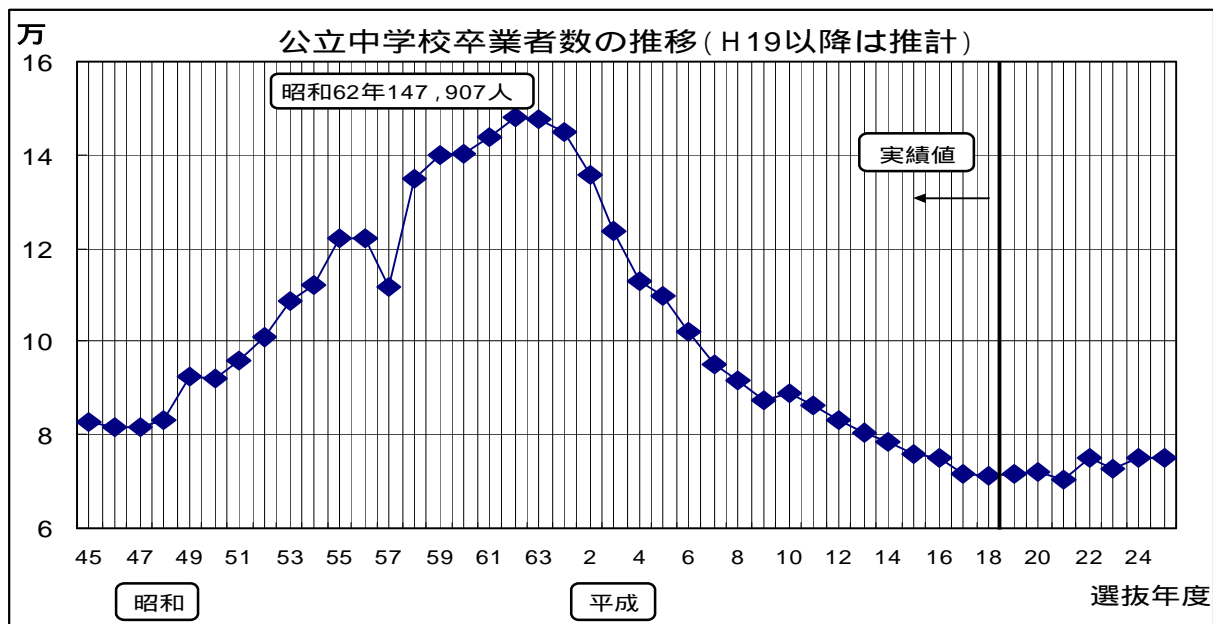
《広報》全日制普通科単位制の理念・特色が理解しにくいという声が聞かれる。また、柔軟な教育課程を編成することができるため、かえって不安や心配を感じる中学校からの声も聞かれる。全日制普通科単位制高校の理念や特色、各校の教育課程や教育活動等について、中学生や保護者、中学校への丁寧な広報活動が求められている。

《単位制の制度》「学習のペースを自分で決めることができる」などの理由で全日制普通科単位制に進学したが、単位制の制度をうまく活用できないため進路変更してしまう者がいるなどの課題があり、制度運用面での工夫が求められる。

= = = 第 部 資 料 = = =

1 特色づくり・再編整備計画 (概要)

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">特色づくり</div> <p style="text-align: center;">～ 社会の変化 ～</p> <p>国際化、情報化、少子高齢化等 多様な学習ニーズ</p> <p>「入れる学校」から「入りたい学校」へ 新しいタイプの高校づくりを進めます</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;">再編整備</div> <p style="text-align: center;">～ 公立中学校卒業生数の減少 ～</p> <p>昭和 62 年約 14 万 8 千人 平成 20 年約 7 万人</p> <p>適正な規模を確保し、 活力ある学校づくりを進めます</p>
<p>「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」〔平成 11 年度〕</p> <p>「府立高等学校特色づくり・再編整備計画 (全体計画)」〔平成 15 年度〕</p>	



【特色づくり・再編整備計画の経緯】

- ・平成 11 年 4 月 「教育改革プログラム」の策定
- ・平成 11 年 11 月 「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」を策定
第 1 次実施対象校決定以降 13 年度第 3 年次実施対象校まで決定
- ・平成 14 年 5 月 学教審答申「今後の後期中等教育のあり方について」
- ・平成 15 年 5 月 学教審答申「今後の府立工業高校のあり方について」
- ・平成 15 年 11 月 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画 (全体計画)」を策定
平成 15 年度 (第 1 年次) 実施対象校決定 以降、順次実施
- ・平成 19 年 11 月 平成 19 年度 (第 5 年次) 実施対象校の決定

【「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」のポイント】

<p>全体計画の基本理念と計画の前提</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入れる学校」から「入りたい学校」への特色ある学校づくり 適正な規模を確保して活力ある学校づくり ・府立高校全体を対象 ・計画期間は平成 20 年度まで ・昼間の高等学校に対応する新たな計画進学率 92.3% から 93.9% へ 公私受入分担比率 7 : 3、1 学級 40 人 普通科高校・工科高校 1 学年 8 学級規模、 多部制単位制高校 1 学年最大 8 学級規模 総合学科・普通科総合選択制等 6 ~ 7 学級 <p>統合整備基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある高校のバランスある配置と、適切な学校の組合せ ・府立高校設置数が 2 校以上の市町村を対象（既に 1 校が特色ある学校の場合は除外） ・通学区域内の隣接する 2 つの市町村の「地域」を対象とし、平均募集学級数の最も少ない「地域」を対象 ・市町村域を越えた統合も実施 計画の公表・対象校の決定方法 ・具体の対象校は、生徒減少の状況、各学校の特色ある取組み等を判断する必要から年度ごとに決定 ・毎年、最も少子化の進んだ地域で統合を実施 必要に応じた計画の見直し ・公立中学校卒業生数、公私受入分担比率、通学区域など、計画の前提に変更が生じた場合には必要の都度、計画の見直しを図る。 	
--	--

【特色づくり・再編整備計画による新高校】

普通科総合選択制	豊島 福井 北摂つばさ 東淀川新高校（平成 21 年度開校予定） 大正 門真なみはや 枚方なぎさ 緑風冠 北かわち皐が丘（平成 20 年度開校予定） 八尾翠翔 かわち野 西成 金剛 みどり清朋（平成 20 年度開校予定） 羽曳野地域新高校（平成 21 年度開校予定） 成美 伯太 日根野 泉南地域新高校（平成 21 年度開校予定） <○数字は通学区域>
総合学科	能勢*（中高一貫校） 千里青雲 柴島* 芦間 枚岡樟風 八尾北 今宮* 松原* 堺東 貝塚 <*全体計画外>
全日制普通科単位制	槻の木 長吉 鳳（平成 20 年度普通科から改編予定） 市岡新高校（平成 21 年度普通科から改編予定）
多部制単位制	箕面東 桃谷 咲洲 成城 東住吉総合 和泉総合
専門高校	農業高校 ... 園芸 農芸（平成 18 年度新教育課程） 工科高校 ... 茨木工 西野田工 淀川工 今宮工 城東工 布施工 藤井寺工 堺工 佐野工 総合造形高校 ... 港南造形 国際・科学高校 ... 千里 住吉 泉北

2 教育改革プログラム（平成 11 年 4 月）抜粋

【 】大阪の教育改革

21 世紀を展望し、大阪の教育の現状と課題や社会の変化、完全学校週 5 日制等を踏まえ、大阪の伝統を活かし元気で独創的な学校と教育を創造するため、憲法・教育基本法をはじめ関係諸法令に基づき、以下の点を重視した人づくりを目指して教育改革を推進する。

社会の一員としての自覚と規範意識を身につける
基礎・基本の上に、自ら考え、判断し、行動する力を養う
進取の精神とたくましく生きるための健康・体力を養う
生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性をはぐくむ
自然や美への感性を磨き、個性と創造力をはぐくむ
郷土への誇りを持ち、世界に目を向けた生き方を養う

教育改革の推進に当たっては、過度の受験競争を緩和するなど子どもが「ゆとり」の中で生き生きと学び生活できるよう、社会全体が一丸となって取り組むことが重要である。このような観点から、学校教育の再構築と家庭・地域社会の総合的な教育力の再構築を図ることとする。

1 学校教育の再構築

(1) 学校改革

児童・生徒一人ひとりの個性や創造的能力、豊かな人間性をはぐくみ、学（校）歴にとらわれない生き方が可能となるよう、幼児期からの教育の充実を図り、多様な学習ニーズと幅広い進路選択に対応した特色ある学校づくりを進める。

また、各学校における教育をより効果的に推進するため、各学校間の連携を強め、幼児教育から中等教育までの一貫性を図る。

さらに、それぞれの学校にすべての機能を整えて自己完結するという考え方ではなく、市町村が有する施設・設備・人材等のもとより、地域社会や民間の資源等、学校外の協力を得て、学校教育を推進する体制を整備する。

府立高等学校の充実

中学校卒業者のほとんどが高等学校に進学する中で、府立の高等学校が、多様な学習ニーズに応え、地域に根ざして次代の大阪を担う人材を育成するという使命は、ますます大きなものとなっている。

このような観点を踏まえ、今後の府立高等学校の改革を進める。

i) 特色づくりの推進

生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、多様な学習と幅広い進路選択ができるよう、府立高等学校において特色づくりを推進する。さらに、海外から帰国した生徒や高等学校に再チャレンジしようとする生徒の受入れ、社会人のリカレント教育等、国際化や生涯学習社会への移行に対応した取組みを一層充実する。

[具体的取組み]

ア) 総合学科の拡充

普通科目と専門科目にわたる多様な科目を開設する総合学科を、現状の3校から各通学区に1校程度配置できるよう拡充する。その際、大阪の地域特性を生かした「国際理解」や「芸術文化」、現代社会における人間の心理や行動を学ぶ「人間科学」、新しい時代に対応した「環境」「情報」「福祉」など、特色のある系列を持つ総合学科を地域的にバランスよく配置する

イ) 全日制単位制高校の設置

- a) 学年による教育課程の区分を設けず、所定の単位を修得すれば卒業できるシステムを持ち、生徒自らが主体的に選択した学習計画に基づいて学ぶことができる全日制単位制高校を複数校設置する
- b) 全日制単位制高校等の設置と併せて定時制・通信制の課程の適正配置のあり方について検討する

ウ) 新たな専門高校の設置

国際理解教育と情報教育を総合的に学ぶ国際情報高校、他の学校も利用できる先端的で高度な機器や装置を備えた総合先端技術高校などの新しいタイプの専門高校を設置する

エ) 普通科の特色づくりの推進

- a) 従来の普通科目を主体としながら、情報、福祉、国際理解、芸術等の専門科目を幅広く選択できる「総合選択制」を導入した学校を各通学区に複数校整備する。その際、それらの専門科目を学年の枠を越えて選択できるよう、教育課程の弾力的な運用に努める
- b) 音楽、体育、情報処理等のコースについて、さらに専門性を高める学習や資格取得を目指した学習ができるよう、専門学科に準じる程度に専門科目を拡充する
- c) すべての普通科において、地域の実情や生徒の実態に応じて、それぞれのスクールカラーが明確になるよう、教育課程の一層の改善を図るとともに、教育活動に創意工夫を凝らし特色づくりを推進する

オ) 職業学科の特色づくりの推進

- a) 職業学科を設置する専門高校の入学者選抜において、機械科、電気科といった小学科ごとではなく、工業科といった大学科で選抜し、第2学年から小学科を選択させる「総合募集」を拡大する
- b) 職業学科において、資格取得や大学進学に対応した新たなコースを設けるなど、教育課程の工夫改善に努める。また、それぞれの小学科において選択科目数を増やすとともに、小学科の枠を越えて学ぶことができるよう選択幅の拡大を図る
- c) 生徒が先端技術や企業の実態に触れ、豊かな職業観や勤労観をはぐくむことができるよう、産業界との連携を図り、専門技術者の招へいを拡充する。また、職業教育の担当教員が専門知識・技術の向上を図るため、企業派遣研修を充実する
- d) 企業等における職場体験を通じて、生徒に自己の適性や将来について考えを深めさせ、豊かな職業観や職業選択能力をはぐくむため、「インターンシップ(就業体験)制度」の活用を促進する
- e) 中学生の高等学校における体験学習の機会の拡大を図るとともに、地域の行事等に積極的に参加することなどにより、職業学科に対する中学生をはじめとした府民の理

解を深める。また、地域社会における生涯学習の充実のため、施設・設備や教員の専門的知識・技能等を積極的に提供する

f) アジアをはじめとする海外の高校生との技術交流など、国際化に対応した取組みを拡大する

力) 中高一貫教育の整備方向の検討

中高一貫教育のあり方については、市町村教育委員会や小・中・高等学校等の代表者からなる大阪府中高一貫教育研究会議において、プロジェクトチームを設けて実践的な研究を推進し、平成 11 年度末までに一定の結論を得て、早期に方向性を明らかにする

) 新たな教育システムの導入

地域の実情や生徒の実態に応じて、教育効果を一層高める観点から、学期の区分や授業時間の運用を弾力化し、学校外の学習の機会を拡大する等の新たな教育システムを導入する。

[具体的取組み]

ア) 二期制の拡充

1 学年を 4 月から 9 月までの前期と 10 月から 3 月までの後期に分け、学期による区切りを少なくすることにより、多様な履修形態が可能となるよう二期制の導入を拡充する。あわせて、各期ごとに単位認定を行うなど、単位の修得について一層の弾力化を図る

イ) 授業時間の弾力的運用

50 分を標準としている授業について、ロングタイム授業やショートタイム授業を導入するなど、教科・科目の特質や教育内容等に応じて授業時間の工夫を図る

ウ) 教科・学年の枠を越えた学習の導入

「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「環境」「国際理解」等の教科の枠を越えた横断的・総合的な学習の導入を進めるとともに、学年の枠を越えて学ぶことができるよう、教育課程の工夫改善を図る

エ) 転編入制度の弾力化等の推進

中途退学の増加等に対応し、個に応じた教育を展開するため、学校の成績判定に係る内規や転科制度の弾力化を推進する。あわせて、中途退学者が高等学校へ再チャレンジできるよう編入学制度の弾力化を進める

オ) ハブ高校の創設など学校間連携の推進

a) 専門高校や総合学科、スクールカウンセラーの配置校など特色ある教育活動を重点的に進める学校をハブ高校（拠点校）として、近接した学校との交流を推進する

b) 生徒の選択学習の機会を拡大し、教育課程の一層の多様化を図るため、在籍校以外で開設されている科目を学ぶことができるよう学校間連携を推進する。また、授業以外の学校行事等においても、他校と合同での取組みを工夫する

カ) 学校外における学習機会の充実

a) 生徒の個性や能力の伸長、学習への動機づけ、資格取得等に資するため、大学や専修学校等における学習、ボランティア活動等の社会貢献活動への参加、技能審査の受験などを奨励し、その成果を単位として認定する制度の活用を推進する

b) 生徒が自己の適性や将来について考え、豊かな職業観や職業選択能力を身につけることができるよう、企業等における体験学習を進める

）全日制府立高等学校の特色づくり・再編整備の実施

生徒減少期を教育環境・教育条件など教育の質的向上を図る好機と捉え、府立高等学校の特色づくりとあわせて適正な配置の観点から再編整備を推進する。

[具体的取組み]

ア) 特色づくり・再編整備計画

既存の学校の改編や、複数の学校それぞれの良さを発展的に継承する形で統合すること等により、以下のとおり特色づくりと合わせた再編整備を推進する

学科等 年度	普通科		総合学科	全日制 単位制 高校	専門高校	計
	普通科	専門学科併置、 総合選択制等				
平成 1 0	1 1 7 校	1 9 校	3 校	-	1 6 校	1 5 5 校
（特色づくり・再編整備の実施）						
平成 2 0	7 6 校	2 9 校	9 校	4 校	1 7 校	1 3 5 校

(注 1) 現行の学級定員（40 名）計画進学率（92.3%）公私分担比率（7:3）を前提とし、学校規模を普通科の単独校については1 学年 8 学級（320 名）特色のある学科等については1 学年 6 ～ 7 学級（240 ～ 280 名）として試算した。

(注 2) 学校数の計には、単位制による定時制・通信制課程の高校（1 校）は含まない。

(注 3) 専門高校には職業学科を設置した専門高校を含む。

イ) 特色づくり・再編整備計画の推進

a) 平成 11 年度から平成 20 年度までの 10 年間で 3 期に区分し、計画的に再編整備を進める

第 1 期	第 2 期	第 3 期
平成 11 年度～ 平成 14 年度	平成 15 年度～ 平成 17 年度	平成 18 年度～ 平成 20 年度

b) 府教育委員会に設置した高校改革推進室において、再編対象地域・対象校を選定し、具体的な実施計画を策定する

ウ) 特色づくり・再編整備計画の見直し

今後、公立中学校卒業生数や学級定員、計画進学率、公私分担比率等の前提条件に変動が生じた場合には、必要の都度、見直しを図る

エ) 生徒受入れに関する条件整備

a) 入学者選抜方法については、個々の学校の特色や実情に即したものとなるよう工夫改善に努める

b) 計画進学率のあり方について検討し、平成 14 年度までに結論を得る

c) 通学区域と学校選択のあり方について検討する

3 中学校等アンケート

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」中学校等アンケート

実施時期：平成 19 年 10 月

対 象：500 校 公立中学校 463 校、盲・聾・養護学校 37 校

回 答：419 校（83.8%） 公立中学校 403 校（87.0%） 盲・聾・養護学校 16 校（43.2%）

質問用紙

* 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」によって、平成 19 年度までに開校した特色ある学校（以下「改革校」）について、アンケートの質問にご回答下さい。

* 各質問について、～ を選び、回答用紙の該当する回答欄の を鉛筆やボールペンで塗りつぶしてマークしてください。

よくあてはまる

ややあてはまる

あまりあてはまらない

全くあてはまらない

その他（ ）

* 「その他」をマークされた場合の理由等は、回答欄に文章でご記入ください。

* ご意見等をご記入いただく質問については、回答欄に文章でご記入ください。

《「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」について》

【質問 1】	「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」の概要を理解している。
【質問 2】	「改革校」の各タイプ（総合学科、普通科総合選択制...）の概要を理解している。
【質問 3】	新たに設置された各タイプ（総合学科、普通科総合選択制...）の「改革校」は、生徒のニーズに込えている。
【質問 4】	「改革校」が新たに設置されたことにより、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応した進路指導がこれまで以上に充実した。
【質問 5】	大阪府教育委員会や「改革校」による、教育システムや教育内容等についての資料提供、説明会等の広報は、中学校等での進路指導に有効である。
【質問 6】	多様なタイプ（総合学科、普通科総合選択制...）の「改革校」が新たに設置されたことにより、生徒は自分の興味・関心、適性などに込じた高校を選択しやすくなった。
【質問 7】	「改革校」に進学した生徒は「改革校」に満足しているようである。
【質問 8】	「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」について、ご意見・ご要望等があればご記入ください。
【質問 9】	「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」や通学区域の改正等によって、府立高校の全体像は大きく変わりました。府立高校について、また中学校等の進路指導の充実方策等についてご意見・ご要望等があればご記入ください。

《「改革校」各タイプ別について》

<p>「総合学科高校」についての質問 普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。</p>	
【質問 10】	「総合学科高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 11】	「総合学科高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 12】	上記 2 問に関するコメントや「総合学科高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「普通科総合選択制高校」についての質問 普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。</p>	
【質問 13】	「普通科総合選択制高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 14】	「普通科総合選択制高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 15】	上記 2 問に関するコメントや「普通科総合選択制高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「多部制単位制高校」についての質問 生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。</p>	
【質問 16】	「多部制単位制高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 17】	「多部制単位制高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 18】	上記 2 問に関するコメントや「多部制単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「夜間定時制高校」についての質問 新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。</p>	
【質問 19】	「夜間定時制高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 20】	「夜間定時制高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 21】	上記 2 問に関するコメントや「夜間定時制高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「全日制普通科単位制高校」についての質問 全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。</p>	
【質問 22】	「全日制普通科単位制高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 23】	「全日制普通科単位制高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 24】	上記 2 問に関するコメントや「全日制普通科単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。

<p>「工科高校」についての質問</p> <p>産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに、再編整備を実施する。</p>	
【質問 25】	「工科高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 26】	「工科高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 27】	上記2問に関するコメントや「工科高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「国際・科学高校」についての質問</p> <p>国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。</p>	
【質問 28】	「国際・科学高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 29】	「国際・科学高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 30】	上記2問に関するコメントや「国際・科学高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「総合造形高校」についての質問</p> <p>造形科目の学習を通して芸術的感性を磨き、実物にふれる多様な体験を基礎に、自由な発想力・想像力を伸ばし、次代の大阪の美術、デザイン、工芸を支える人材の育成をめざすとともに、基礎学力の充実を図り、専門分野の学習を通して進路実現の力を育む。</p>	
【質問 31】	「総合造形高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 32】	「総合造形高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 33】	上記2問に関するコメントや「総合造形高校」に対するご意見等があればご記入ください。
<p>「農業高校」についての質問</p> <p>城山高校の「有機農業」「環境教育」「DNA関係実習」を園芸高校の教育課程に統合。横山高校の「環境保全」「ヒューマンサービス」分野の教育内容を農芸高校の教育課程に統合。（平成18年度から機能統合により園芸・農芸高校で新教育課程を開始）</p>	
【質問 34】	「農業高校」の特色・目的を教員は理解している。
【質問 35】	「農業高校」は、生徒のニーズに応えている。
【質問 36】	上記2問に関するコメントや「農業高校」に対するご意見等があればご記入ください。

集計結果

「肯定的回答」... 「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」の合計

「否定的回答」... 「あまりあてはまらない」 + 「全くあてはまらない」の合計

《「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」について》

質問 1 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」の概要を理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
34.9%	59.6%	5.0%	0.5%	0.0%
94.5%		5.5%		

「よくあてはまる」が 34.9%、肯定的回答が 94.5%となっている。中学校等への周知は一定進んでいるが、まだ、充分ではない部分もあるものと思われる。

質問 2 「改革校」の各タイプ（総合学科、普通科総合選択制...）の概要を理解している。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
32.5%	59.3%	7.7%	0.2%	0.2%
91.9%		7.9%		

「よくあてはまる」が 32.5%、肯定的回答が 91.9%となっている。中学校等への周知は一定進んでいるが、まだ、充分ではない部分があるものと思われる。

質問 3 新たに設置された各タイプの「改革校」は、生徒のニーズに込えている。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
10.3%	65.8%	19.9%	1.4%	2.6%
76.1%		21.3%		

「よくあてはまる」が 10.3%、肯定的回答が 76.1%、否定的回答が 21.3%となっている。他の質問と比べて「よくあてはまる」が少ないのは、記述部分の回答も含めて推察すると、「ニーズに込えているかどうかは学校タイプによって異なる」という認識が反映された面もあるものと思われる。

質問 4 「改革校」が新たに設置されたことにより、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応した進路指導がこれまで以上に充実した。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
7.9%	57.2%	30.4%	2.4%	2.2%
65.1%		32.8%		

「よくあてはまる」が 7.9%、肯定的回答が 65.1%、否定的回答が 32.8%となっている。他の質問と比べると「よくあてはまる」が少なく、否定的回答が多い。その理由としては、記述部分の回答も含めて推察すると、

- ・「改革校」の詳細や具体的教育内容についてはまだ充分には理解されていない。
- ・改革に対応した進路指導の定着には一定の時間が必要である。

などの認識が反映された面もあるものと思われる。

質問5 大阪府教育委員会や「改革校」による、教育システムや教育内容等についての資料提供、説明会等の広報は、中学校等での進路指導に有効である。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
25.1%	59.3%	13.6%	1.2%	0.7%
84.4%		14.8%		

「よくあてはまる」が25.1%、肯定的回答が84.4%となっている。否定的回答については、記述部分の回答も含めて推察すると、広報内容の充実とよりわかりやすい情報提供が望まれているものと思われる。

質問6 多様なタイプの「改革校」が新たに設置されたことにより、生徒は自分の興味・関心、適性などに応じた高校を選択しやすくなった。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
12.7%	53.8%	28.9%	3.1%	1.4%
66.5%		32.1%		

「よくあてはまる」が12.7%、肯定的回答が66.5%、否定的回答が32.1%となっている。他の質問と比較すると否定的回答が多いが、記述部分の回答も含めて推察すると、

- ・特色よりも難易度で高校を選択している。
- ・学力層によっては高校の選択肢がかえって狭まった。

などの印象が反映された面もあるものと思われる。

質問7 「改革校」に進学した生徒は「改革校」に満足しているようである。				
よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	その他・無回答
9.6%	70.8%	10.5%	0.7%	8.4%
80.4%		11.2%		

「よくあてはまる」が9.6%、肯定的回答が80.4%となっている。他の質問と比較すると、「よくあてはまる」が少なく、また「その他・無回答」が8.4%と多いのは、中学校では高校進学後のことは正確には把握しにくいという事情や、まだ卒業生を出していない改革校もあることが関係しているものと思われる。

《「改革校」各タイプ別について》

質問 10・13・16・19・22・25・28・31・34 「 高校」の特色・目的を教員は理解している。					
	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない	その他・無回答
総合学科高校	21.8%	61.7%	15.8%	0.5%	0.2%
	83.5%		16.3%		
普通科総合選択制高校	15.1%	58.4%	25.6%	0.5%	0.5%
	73.4%		26.1%		
多部制単位制高校	15.8%	55.0%	27.8%	1.2%	0.2%
	70.8%		28.9%		
夜間定時制高校	36.1%	52.2%	10.8%	0.5%	0.5%
	88.3%		11.2%		
全日制普通科単位制高校	18.7%	54.1%	25.4%	1.2%	0.7%
	72.7%		26.6%		
工科高校	40.9%	50.7%	7.4%	0.5%	0.5%
	91.6%		7.9%		
国際・科学高校	19.4%	51.9%	26.6%	0.7%	1.4%
	71.3%		27.3%		
総合造形高校	17.9%	47.6%	25.8%	1.9%	6.7%
	65.6%		27.8%		
農業高校	23.9%	47.6%	21.3%	1.7%	5.5%
	71.5%		23.0%		

質問 11・14・17・20・23・26・29・32・35 「 高校」は、生徒のニーズに答えている。					
	よく あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない	その他・無回答
総合学科高校	14.4%	65.6%	16.0%	1.0%	3.1%
	79.9%		17.0%		
普通科総合選択制高校	8.9%	63.2%	22.7%	1.2%	4.1%
	72.0%		23.9%		
多部制単位制高校	14.4%	49.8%	29.7%	2.6%	3.6%
	64.1%		32.3%		
夜間定時制高校	16.5%	53.3%	24.2%	2.2%	3.8%
	69.9%		26.3%		
全日制普通科単位制高校	13.4%	51.7%	25.1%	1.7%	8.1%
	65.1%		26.8%		
工科高校	26.1%	58.9%	12.0%	1.0%	2.2%
	84.9%		12.9%		
国際・科学高校	17.9%	54.8%	19.9%	1.4%	6.0%
	72.7%		21.3%		
総合造形高校	20.8%	50.7%	12.0%	1.4%	15.1%
	71.5%		13.4%		
農業高校	22.0%	46.9%	15.3%	1.7%	14.1%
	68.9%		17.0%		

【質問 8】「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」について、ご意見・ご要望等があればご記入ください。

主な回答

生徒のニーズを踏まえた特色ある高校づくりである。再編整備は必要である。
多様な学科等の高校が設置されたことにより、中学生の選択肢は多くなった。
「入りたい学校」として進学した生徒の多くは、目的を持ち意欲的に高校生活を送っている。
公立高校の教員の意識が変わり高等学校が活性化した。
高校から中学校への情報提供等が活発になってきた。
どのようなニーズに対応して特色づくりを行っているのかわからない。
中学段階で、興味・関心や適性を踏まえて行きたい学校を選ぶことは難しい。
通学距離の近い範囲で選択できる高校が減った。また、地域バランスのある配置になっていない。
生徒・保護者は「普通科志向」が強いが、普通科高校が減っている。
前期選抜実施校が多くなり、早く進学先を決めたいために前期選抜を受検する生徒が増えている。前期選抜を受検する生徒が多くなり、中学校での学習に支障が出ている。
学科が多様になり、同じ学科でも違う特色を持つ高校がある。さらに通学区域も改正され、中学校での進路指導に混乱が生じている。
新しい学科や高校についての情報提供を、わかりやすく適切な形で実施してほしい。
生徒が「入りたい学校」を選ぶことのできる力をつけるよう指導している。
改革の成果が表れ、定着するには、一定の時間が必要である。しばらくは、現在の校数、制度を維持してほしい。
高校の変化が激しく、進路指導の対応が大変なので、加配等の支援をしてほしい。
特色づくりが、「進学率アップ」に偏りすぎていると感じられる学校がある。
中学校と高等学校との連携が、今後ますます重要となる。
特色づくり・再編整備計画について検証するとともに、計画実施後の課題等については、次代の計画に生かしてほしい。

【質問 9】「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」や通学区域の改正等によって、府立高校の全体像は大きく変わりました。府立高校について、また中学校等の進学指導の充実方策等についてご意見・ご要望等があればご記入ください。

主な回答

< 通学区域の改正について >

通学区域が拡大し、生徒の選択範囲が広がった。
選択できる普通科高校数の不均衡が是正された。
通学区域の拡大により、府立高等学校の特色づくりが推進された。
通学区域は拡大したが、地理的・経済的な条件等から通学可能な範囲は変わらない。
通学区域の拡大が高校間格差の原因となり、新たなランク付けを生むことを懸念する。
通学区域を撤廃してほしい。
地理的な条件や交通の利便性における不利な高校への対応が必要。

< 公立高等学校入学者選抜について >

選抜の制度・方法が多様になりすぎている。分かりやすい方法で実施してほしい。
前期選抜受験者が増え、中学校での進路指導や学習に支障がある。
成績上位の者が前期選抜校に合格し、後期選抜受験者は成績が低いと思われる。
受検をする生徒・保護者の欲しい情報は「入れるかどうか」である。中学校では対応できないため、保護者は益々塾に頼ることになる。中学校に情報提供してほしい。
中学校での評価は絶対評価であるが、選抜では相対評価である。検討してほしい。
前期選抜校数の増加や通学区域の拡大に伴って、選抜制度も見直してほしい。
普通科総合選択制高校を後期選抜としてほしい。

< 中学校の進路指導の充実について >

高等学校が積極的に中学校訪問を実施したり説明会を開催するのはよいことである。
高等学校の説明会や体験入学が増え、中学校の進路指導担当者や3年生担任等の負担が増えた。
通学区域の拡大及び再編整備により、地元校育成や地元との連携が困難になっている。
後期選抜実施校が少なくなったため、進路指導が困難となっている。低学力層の生徒の選択肢が少なくなっている。
各高校の特色や選抜制度などに関する、分かりやすくまとめた資料等を希望する。
中学校での進路指導の工夫や「キャリア教育」の取組みが重要であると思う。
中学校同士の連携、中学校と高校の連携の重要性が益々大きくなっている。
進路指導の急激な変化で、中学校は混乱している。一定期間、改変がないことを望む。
改革校へ進学した生徒の高校生活、進路についての情報提供をしてほしい。
生徒にとって魅力ある・誇りの持てる高校づくりの一層の推進をお願いしたい。
府立学校の中学部には、地域の中学校には届く情報が届かないことがある。

< 府立高校全体について >

「府立高校ガイド」や「可能性にチャレンジ」のリーフレットは分かりやすく好評である。
府立高校が「待ち」の姿勢から「攻め」の姿勢に変化したことは評価できる。
改革対象となっていない普通科高校、特に「困難校」に対して、支援が必要である。
各校のホームページを充実してほしい。
中高一貫校の検討をお願いしたい。
自立支援コースなど、障害のある生徒に対応した進路選択を検討してほしい。

【質問 12】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「総合学科高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

目的意識のある生徒のニーズ、生徒の興味・関心に対応している。
科目選択のガイダンスや生徒一人ひとりにあった進路実現によく努力している。
普通科総合選択制との違い、他の総合学科高校との違い、選択科目等の内容がわかりにくい。
独自性が見えない学校、多様な選択科目といいながら進学にシフトしている学校がある。

< 入学者選抜の状況 >

中学校3年生の段階では自分の進路・適性等を考え、選択することは難しい。総合学科の特

色を理解せず、選抜の時期や学校名だけで選択した生徒も少なくない。
学びたい教科・科目のある総合学科高校が遠方のため進学できなかった。

< 学校生活の状況 >

総合学科に進学した生徒が以前より生き生きとしており、学校として活性化している。
科目選択で、自分の目的・目標がきちんとつかめた上で選択できているのかを知りたい。
施設・設備の整備、担当する教員の負担増への対応、専門教員の確保や担当教員の技量の保障ができているのか。
総合学科は生徒に選択力が求められるが、しっかりした目標が持てない生徒が問題。
選択科目は選択者が少人数であっても開講されているのか。

< 進路状況 >

総合学科を卒業した生徒のその後の進路や活躍・実績の検証、生徒・保護者や中学校への情報提供が必要である。

< その他 >

総合学科の今後の更なる充実に期待する。
総合学科の特色・内容の周知、教職員の意識改革には一定の時間が必要。総合学科高校の生徒の生の声を聞きたい。

【質問 15】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「普通科総合選択制高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

目的意識のある生徒のニーズ、生徒の興味・関心に対応している。
普通科や総合学科との違い、普通科総合選択制の特色、エリアの内容などがわかりにくい。
普通科総合選択制各校の特色の違いが明確でない。普通科総合選択制各校の教育内容が同じものになっている。

< 入学者選抜の状況 >

希望者は毎年多い。人気は高い。
前期選抜で当該校の評価が高まった。
早く決めたい生徒が集中する。学校名だけで選択した生徒も少なくない。
後期選抜にしてほしい。一斉入試にしてほしい。
教育内容よりランクで判断されている。入試の難易度で選ばざるをえない。

< 学校生活の状況 >

進学した生徒は概ね満足している。
自分の目的・目標をふまえた科目選択ができているのかどうかを知りたい。

< 進路状況 >

生徒の一人一人にあった進路の実現によく努力している。
普総選を卒業した生徒のその後の進路や活躍・実績の検証、情報提供が必要である。

< その他 >

普通科希望者が多い。普通科を減らしすぎである。
総合学科に比べ人的・物的条件が不十分である。

【質問 18】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「多部制単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

目的意識を持つ生徒、不登校生徒、従来の学校の枠に入れない生徒、普通科では積極的に参加できない生徒などが興味・関心を持って通学している。退学に歯止めがかかるなど多様な学び方に応えた形態である。

夜間定時制への不本意入学者が多かったが、夜間定時制より生徒のニーズに合っている。生活リズムによって時間帯を選べることは素晴らしい。

新しいタイプの学校であり、3年担当以外の教員や生徒や保護者が理解できていない。

高校段階で、時間的な部分で多様性を持たす必要があるのか、ニーズに応えることを重視し過ぎではないか。

今後も生徒一人ひとりのニーズにあった改革を進め、よりきめ細かな対応をしてほしい。

< 入学者選抜の状況 >

教育課程の理解が不十分なまま選択している者や学力面から選択する者もあり、目的意識のある生徒が進学できているとは思えない場合がある。

部希望者が多いので、一括募集し、希望により部を選択させ、1～8時限授業を自由に選べるようにしてほしい。

< 学校生活の状況 >

ほとんどの生徒は3年間卒業を希望する。

3つの部の乗り入れができれば、生徒たちにはプラスに働く。

< その他 >

学校説明会（在校生のなまの声や映像等）の開催や、わかりやすい情報（従来の定時制との違い、メリット、生徒支援、選択、時間割等）がほしい。

【質問 21】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「夜間定時制高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

働きながら学ぶだけでなく、他の理由で夜間定時制を選択する生徒があり、存在意義は大きい。

再編整備により校数が減少し、通学しにくい状況になっている。校数の減少は生徒・保護者のニーズに対応していないのではないか。

定時制を必要とする生徒が存在し、また学校によっては倍率が上がっていることから、これ以上校数を減らさないで欲しい。

< 入学選抜の状況 >

働きながら学ぶ生徒や不登校傾向であった生徒が選び、進路保障につながっている。

就労しながら夜間に学ぶ生徒が減少する中で、生活パターンや入試の難易度によって選択する生徒など進学時の意識や動機に課題がある。

後期選抜の後に入試を実施してほしい。

< 学校生活の状況 >

丁寧な指導が行われており、学校は努力されている。

通学する生徒は課題を多く抱え、中途退学や不登校になる場合が多くなっている。

新しい夜間定時制の内容がわからなかったり、昔のイメージを持たれていることから、PRが必要ではないか。

様々な課題を抱える生徒の就学の場となるため、また、魅力ある学校になるため、教育内容の充実をお願いしたい。

< その他 >

進学する生徒に目的意識を持たせる進路指導が行えていない。

【質問 24】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「全日制普通科単位制高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

自分の学習ペースに応じて学習できるシステムは必要。単位制高校は趣旨がわかりやすく、生徒のニーズは高い。多様な生徒のニーズに対応している。

受験パターンに応じて各生徒が自分にあった選択科目を選択している。

全日制普通科単位制の特色・目的や、普通科・総合学科・多部制単位制との違いがわかりにくい。

単位制高校だからという理由で選択する生徒は今のところはほとんどいない。

単位制高校としての特色がわからない高校、大学受験が目的のような単位制高校がある。

進学率の高さによって選んでいる生徒も少なくない。

単位制の既存の 2 校の特色は大きく異なっている。

< 入学者選抜の状況 >

自分で学習計画を立てることが難しいと思われる生徒も入学している。一人ひとりにあったきめ細かい対応・指導を望む。

学びたい教科・科目のある全日制普通科単位制高校が遠方のため進学できなかった。

< 学校生活の状況 >

中途退学者が多い。退学者を減らしてほしい。

所属クラスがないことに違和感を覚える生徒がいた。クラスとしてのまとまりがなく、行事が盛り上がり、高校生活が味気ないように思える。

< その他 >

単位制高校への進学者が少なく情報があまりない。在生徒の生の声を聞きたい。

今後、多部制単位制として展開することや中高連携モデル校になることを検討してほしい。

【質問 27】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「工科高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 入学者選抜の状況 >

入試の段階では細かな興味・関心、適性が分からない生徒が多いので、入学して 1 年間、工

業に関する基礎学習を受けた後、2年生で学科を選択するのはとてもよい。

1年生で、幅広く工業の基礎的な知識が得られるのでよい。

2年生からの学科(系・専科)選択で、希望する学科に進めず不満を持つ生徒もいると聞く。

2年生からの系・専科の選択に際して、希望するところに進めるよう、一層努めて欲しい。

<教育課程>

技術立国の日本として技術者を育てることは重要である。将来のより高度な学習につながる教育の場としての役割もある。生徒たちの側にも希望があり、ニーズに答えている。

専門分野を身につけるため、より高度な充実した設備、教育内容を望みたい。

<その他>

不本意入学でなく目的意識を持って受験する生徒が増えていると感じている。

中学校の教員が「工科高校」の内容をよく理解できていない現状である。教員に向けた資料説明が欲しい。

「前期で合格するなら工科高校でもいい」と考える生徒も少なくない。

中途退学者の原因を解明する必要がある。

【質問 30】上記 2 問(内容理解とニーズに関する質問)に関するコメントや「国際・科学高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

<設置理念・特色>

中学校段階で、英語(語学、外国)や科学(理数系)に深く関心を持っている生徒が多くいる。生徒は自分の興味・関心に従って国際・科学高校を選択している。

国際・科学高校は特色・目的が明確であり、目的意識を有した生徒には有効な高校である。

国際・科学高校というコンセプトが分かりにくい。私学の特進コースのようになっているのではないか。

国際文化科と国際教養科、英語科との違い、総合科学科と理数科との違い等が分かりにくい。

特色や「国際交流」等の取組みが理解されていない。

中学校3年生で、自分の進路や適性等から選択するのは難しい。大部分の生徒にとっては基本的な学習が大切である。

総合科学科の名称を「実験研究科」などにしてはどうか。

<入学者選抜の状況>

国際・科学高校が近くにないため進学できなかった。増やす方向で検討してほしい。

<学校生活の状況>

進学した生徒は、目的意識を持ち、充実した有意義な高校生活を送っている。

<進路状況>

卒業生の進路情報を提供してほしい。

<その他>

進学する生徒が少ない。進学した生徒の生の声を聞きたい。

【質問 33】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「総合造形高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

美術系人材育成に適切な学校で、美術系を選択する生徒のニーズ、興味・関心に対応しており、生徒は楽しく登校している。

校数を増やしてほしい。

< 入学者選抜の状況 >

目的意識を持って進学している。

< 学校生活の状況 >

様々な取り組みがあり、いろいろな分野の体験ができ、よい環境や設備の中でねらいに沿った教育が展開されている。

< 進路状況 >

進路情報が欲しい。

< その他 >

カリキュラム内容が理解できる情報の提供、学んでいる高校生の生の声を中学生に聴かせる機会、生徒作品を見学できる場を設定して欲しい。

【質問 36】上記 2 問（内容理解とニーズに関する質問）に関するコメントや「農業高校」に対するご意見等があればご記入ください。

主な回答

< 設置理念・特色 >

農業高校のニーズはあり、新しい農業等の担い手を育成する意義は大きい。

農業離れが進み、ニーズは低い。農業分野の統合は疑問。

普通科総合選択制や総合学科でも農業や園芸に関してのニーズに応えられるようにしてほしい。

< 学校生活の状況 >

教員の理解は充分でない。

素晴らしい環境と施設の中で学習でき、生徒は楽しんで登校している。幼小中ともよく連携し、入学後興味・関心を引き出してくれている。新教育課程のもと更に発展してほしい。

< 進路状況 >

郊外に位置し、通学に不便である。

「入れる学校」の発想で選択する生徒、地理的に近いから進学している生徒がいる。

< その他 >

体験に行き受検するかどうかを決定する生徒が多いので、説明会や体験学習の回数を増やしてほしい。農業高校で学んでいる高校生の生の声を中学生にもっと知らせる機会を望む。

農業の大切さを伝える場を持って、自然や環境という視点からのアピールを期待する。

農業に関心を持つ生徒を育てたい。

4 市町村教育委員会意見交換会（概要）

平成 19 年 10 月 19 日（金）市町村教育委員会進路指導担当指導主事との意見交流会まとめ

【出席者】36 市町村進路指導担当指導主事（対象市町村：43 市町村）

特色づくり再編整備において評価できること

総合学科や普通科総合選択制では、選択肢が増えるなど改革によって生徒の進路選択の力もついたと思う。

多部制単位制高校や全日制単位制高校が、多様なニーズのある生徒の興味・関心や進路希望、適性等によって選ばれる選択肢となった。

工科高校の総合募集は、入学者選抜での学科による不合格がなくなり中学校進路指導に評価されている。

夜間定時制は、不本意入学者が減り良くなった。

改革校に限らず、高校全体で特色づくりなどの取組みが学校を活性化させている。また、体験入学や学校説明会・パンフレットなどの広報活動も活発で、学力レベルだけでなく特色で学校を選ぶことができるようになった。

今後の課題となること

改革前は名前で学校のイメージができたが、改革が進み様々なタイプの学校が出来たことはよかったが、それぞれの特色や内容が十分に理解できるところまで行っていない。中学校や保護者に浸透させるための継続的な説明や広報活動が必要。また、中学校から地理的に遠い学校の情報が入りにくいということもある。

前期と後期の選抜があり、前期選抜で合格する生徒数が増加したことや選抜方法の多様化したことによって、中学校では、進路指導などで苦慮している。

特色づくり・再編整備や通学区域の改正で、後期選抜の学校選択で指導が難しくなった。

改革校について、学校が完成後もその特色の方向性が改革の趣旨に沿っているのかを見ていく必要がある。

5 進路担当者意見交換会（概要）

平成 19 年 10 月 26 日（金）進路担当者意見交換会まとめ

【出席者】公立中学校進路指導担当者 19 名

特色づくり再編整備において評価できること

中学校では「入りたい学校」を選択させる進路指導が実施され、生徒は学習内容を考えて受験校を選択するようになった。

再編整備により、生徒の選択肢が広がった。

高校からの広報活動が積極的になった。

多部制単位制高校 部は、不登校などの課題がある生徒の進学先として有効である。

工科高校の総合募集は、入学後の系・専科を決定できるので評価できる。

国際・科学高校へはニーズがあって、改編して良かったのでは。

今後の課題となること

特色づくりといいながら、再編により、部活動の特色が失われた場合もあった。

大きな改編に中学校が多忙化し、情報を収集できない状況になっている。

改編により、学力層によっては受験する学校が少なくなった。

総合学科の男女比がアンバランスではないか。

普通科総合選択制の特徴が明確でない。総合学科との違いがわからない。

普通科総合選択制のエリアについて本来の趣旨を振り返るべきでは、学校説明会で、普通科と同様の説明をしている学校がある。

工科高校の系・専科の選択が生徒の希望を叶えられるか不安である。

夜間定時制に、昼間の学校に入れないという理由で受験する生徒が存在する。

全日制普通科単位制高校 2 校の性格があまりに異なり、ねらいがわからない。

6 府立高等学校長からの意見（概要）

1．特色づくり・再編整備計画や府立高校全体について

【成果】

- * 特色ある学校づくりは大きく進み、それなりに成果を上げている。
- * 生徒減少と国際化や情報化などの社会情勢に対応して行われた「特色づくり・再編整備」は一定の成果を収めた。
- * 「総合学科」をはじめ改革校が出来たことは、改革校以外の学校での特色づくりの推進による影響を与えた。「学校の魅力」や「学校の特色」ということを改めて見直す機会を得た。

【課題】

- * 改革対象校では、完成期以降の改革推進の学校運営で継続的かつ個々の学校の状況に応じた支援が必要。
- * 改革校だけではなく府立高校全体の検証が必要である。選抜による影響の分析が必要である。
- * 前期選抜校の増加から、選択の基準が「入りたい学校」でなく、「早く決まる学校」になった。
- * 中学校の進路指導がたいへん煩雑になっていると聞く。「入れる学校から入りたい学校へ」という進路指導がうまく機能しているか疑問。

【その他】

- * 多様な選択科目設定の中で教科の壁による困難さがある。
- * 母体校と新校が併置する期間の改編は、両校の関係など困難な状況がある。
- * 改革対象以外の普通科高校にも総合活性化事業やエルハイスクールなどがあるが、全体的なビジョンが示されていない。
- * 対象校以外の学校の支援について考えるべきである。

2．改革校について

【成果】

- * 総合学科は、設置が比較的早く、中学生・保護者等への理解も一定進んでいると考えられる。また、各校の取組みも理解され、「入りたい学校」として選択される対象となっている。
- * 総合学科は普通教科・科目と専門教科・科目が設置された学科であり、興味・関心や進路希望等が明確で、両方の学科の特徴を求める生徒にとってはニーズに合った学校である。
- * 普通科総合選択制で多様な科目を設定することは、生徒にとって意味がある。
- * 普通科総合選択制への移行に伴って、学校運営のあり方の改革にも着手できた。
- * 工科高校改革で、特色ある学校づくりは大きく進んだ。
- * 多部制単位制高校では、多様な選択科目、資格取得、インターンシップなど多様な学びの提供や少人数授業などきめ細かい単位修得支援の取組みが特色となっている。

* 多部制単位制高校では、不登校生徒が自信や誇りを持ち登校できるようになっている。

* 夜間定時制の課程は、いわゆるリカレントスクールとしての存在意義は大きい。

【課題】

* 予算面での支援や人的支援の継続・充実を望みたい。

* 多様な科目を展開、実施する学校の困難さなど、人事異動を含め学校の実情把握を望みたい。

* 系列や選択科目が、総合学科の理念・特色を踏まえているかどうかの検証が必要である。

* エリアが、理念に示されている「基礎学力」「進路実現の力」に結びついているかどうかについての検証が必要である。

* 工科高校入学者の学習内容不適合は、減少していない。

* 工科高校への進路ガイダンスが安易なものにならないように理解を深める必要がある。

* 工科高校を取り巻く状況を観ながら、募集学級数を検討する必要がある。

* 多部制単位制高校で、工業高校からの改編校では教員の定数などで不安がある。また、普通科では、教員定数・予算・教育課程などに課題がある。

* 多部制単位制高校では、職員会議・部活動・補習・講習などの時間設定が困難である。

* 多部制単位制高校では、部やその学びのシステムにより、学習指導や生活指導をはじめ、様々な指導に困難さがある。

* 多様な学校設定科目の実施だけでなく学校システムや生徒状況に対応するための取組みが、教員の多忙化・疲労感につながっている状況を十分に把握する必要がある。

* 生徒状況に対応して、教育相談体制の充実・強化のための様々な措置やこれまでの人的配置継続が必要である。

* 中学校に夜間定時制の取組みが十分に認知されるよう周知する必要がある。

* 夜間定時制課程の取組みに対する人的支援が必要である。

* クラスや学年制の良さを生かした単位制のさらなる活用が必要である。

* 通常授業の充実や部活動の時間を保障したうえでの単位修得支援の方策を考察する必要がある。

* 農業高校では、「食」「環境」「福祉」などといった重要な部分に係る取組みがあることを知ってもらう必要がある。

* 農業高校では地域連携や高大連携などの取組みを進める上でさまざまな課題がある。